平成10年度版

こころの健康センター所報

三重県こころの健康センター
（精神保健福祉センター）

はじめに

本年5月、精神保健福祉法が改正されました。保護者の保護義務、緊急に入院が必要となる精神障害者の「移送」、精神医療審査会の機能強化等、いずれもこれまで積み残された事項が目白押しです。とりわけ、精神障害者福祉に関する業務が市町村に位置づけられたことは、今後の地域精神保健福祉に大きな変革を迫るものとなりそうです。

我々のこころの健康センター（精神保健福祉センター）も、必置となると同時に、精神医療審査会の事務局運営、通院医療費公費負担や精神障害者保健福祉手帳の判定が、新たな業務として課せられることになりました。

いずれにしろ、精神保健福祉法のみならず、社会福祉基礎構造改革、三障害統合、医療法改正等々と、保健、福祉、医療のリストラが進行するなかで、精神保健福祉体制も大きな曲がり角にあることは確かです。

我々のセンターも、仮オープンして早くも13年が過ぎました。その間は相継ぐ法改正で目まぐるしくもありましたが、我が国の精神保健福祉体制がダイナミックに変化し、それに伴って、地域活動が次々に立ち上がるという、それなりに充実した年月でもありました。ちょうど我々のセンター自身のライフサイクルの節目に、今回の法改正が重なったことになります。

昨年度あたりから、センター業務、特に関係機関への技術支援について、折をみて検討を進めてきましたが、精神障害者支援については、保健福祉部、市町村との関係を大胆に見直す必要がありそうです。また年を追って増加する、メンタルヘルス関連の技術要請についても、センターなりのスタンスを固める時期のようです。

さて、昨年度も皆様のご支援を賜って、各業務とも順調に推移しました。この場をかりて、お礼申し上げます。

また関係各位のご理解を賜って、今年度から、ストレス対策事業、薬物相談ネットワーク整備事業を開始することになりました。同時に、精神保健相談の著増や多様化を踏まえて、相談の一部に診療機能を付加することになりました。限られた職員で、どこまでニーズに応えられるか、いささかの不安もありますが、職員一同心を一つにして、実効のあるものにしたいと思っております。

最後に昨年度は、津地方県民局内のメンタルヘルス関連機関の若手職員によって「心のケア・ネットワークづくり」をテーマに、1年間検討が続けられました。県内各ブロックに心のケアのコア・チームを構想するという提案がなされましたが、現今の社会状況をみると、真剣に考えてみるべき課題かと思われます。皆様のご意見が頂ければ幸いです。

平成11年度　晩夏

こころの健康センター
所長　原田雅典

目　　次

はじめに

Ⅰ．こころの健康センター概要 …… 1
1．沿　革 …… 1
2．業　務 …… 1
3．施設の概要 …… 2
4．組織及び職員 …… 4

Ⅱ．こころの健康センターの活動 …… 5
1．技術指導・技術援助 …… 5
(1) 企画立案 …… 6
(2) 保健所に対する技術指導・技術援助 …… 6
(3) 市町村に対する技術指導・技術援助 …… 7
(4) 福祉機関に対する技術指導・技術援助 …… 8
(5) 教育機関に対する技術指導・技術援助 …… 8
(6) 医療機関に対する技術指導・技術援助 …… 8
(7) 司法機関に対する技術指導・技術援助 …… 9
(8) 労働・産業機関に対する技術指導・技術援助 …… 9
(9) 各種精神保健団体に対する技術指導・技術援助 …… 9
(10) その他の機関・団体に対する技術指導・技術援助 …… 9
2．教育研修 …… 11
(1) 精神保健福祉研修 …… 11
(2) 学生実習 …… 16
(3) 社会復帰指導者研修（デイケア） …… 16
3．普及啓発 …… 19
(1) センターだより「こころの健康」の発行 …… 19
(2) 所報「こころの健康センター所報」平成9年度版の発行 …… 20
(3) こころのケアガイドブックの発行 …… 20
(4) 講演活動 …… 20
(5) こころの健康づくりフェスティバル …… 25

4．精神保健福祉相談 …… 27
(1) 精神保健福祉相談（こころの健康相談・こころのテレフォン相談） …… 27
(2) 思春期講座 …… 34
5．組織育成 …… 37
(1) 家族会・リーダー研修会 …… 37
(2) 精神保健ボランティア教室 …… 38
(3) 思春期アドバイザー養成講座 …… 41
(4) 断酒会・アルコールネットワーク …… 43
6．精神障害者福祉推進事業 …… 45
(1) 精神障害者就労相談 …… 45
(2) 精神障害者自立援助 …… 47
(3) 社会復帰関連施設支援 …… 48
7．調査・研究 …… 49

Ⅲ．資　料　編 …… 51

凡　例

統計表や一覧表において、次の通り略号を用いた。

D　R…医師
PSW…精神科ソーシャルワーカー
PHN…保健婦
C　P…心理技術者

Ⅰ．こころの健康センター概要

1．沿　　革

2．業　　務

3．施設の概要

4．組織及び職員

1．沿　　革

（平成11年8月現在）

三重県こころの健康センター（精神保健福祉センター）は、精神保健福祉法第二章の規定に基づいて設けられた、地域精神保健福祉活動の技術的中枢機関である。

○昭和61年5月　三重県津庁舎津保健所棟1階（津市桜橋3丁目446－34）に開設され、保健環境部保健予防課の分室としてスタートする。

○昭和63年10月　三重県久居庁舎（久居市明神町2501－1）の完成に伴い、同1階に移転。

○平成元年4月　県健康対策課の地域機関として独立（三重県条例第五号）。

○平成11年4月　診療（投薬）開始（三重県条例第五号の一部改正）。

○平成11年8月　三重県久居庁舎4階に増設。

2．業　　務

当こころの健康センターは、「精神保健福祉センター運営要領」（健医発第57号厚生省公衆衛生局長通知、平成8年1月19日）に基づき、次の業務を行っている。管轄は、県下全域である。

(1)　企画立案

地域精神保健福祉を推進するため、都道府県の精神保健福祉主管部局及び関係諸機関に対し、専門的立場から、社会復帰の推進方策や、地域における精神保健福祉施策の計画的推進に関する事項等を含め、精神保健福祉に関する提案、意見具申等をする。

(2)　技術指導及び技術援助

地域精神保健福祉活動を推進するため、保健所、市町村及び関係諸機関に対し、専門的立場から、積極的な技術指導及び技術援助を行う。

(3)　教育研修

保健所、市町村、福祉事務所、社会復帰施設その他の関係諸機関等で精神保健福祉業務に従事する職員等に、専門的研修等の教育研修を行い、技術的水準の向上を図る。

(4)　普及啓発

都道府県規模で一般住民に対し精神保健福祉の知識、精神障害についての正しい知識、精神障害者の権利擁護等について普及啓発を行うとともに、保健所及び市町村が行う普及啓発活動に対して専門的立場から協力、指導及び援助を行う。

(5)　調査研究

地域精神保健福祉活動の推進並びに精神障害者の社会復帰の促進及び自立と社会経済活動への参加の促進等についての調査研究をするとともに、必要な統計及び資料を収集整備し、都道府県、保健所、市町村等が行う精神保健福祉活動が効果的に展開できるよう資料を提供する。

(6)　精神保健福祉相談

センターは、精神保健及び精神障害者福祉に関する相談及び指導のうち、複雑又は困難なものを

行う。心の健康相談から、精神医療に係る相談、社会復帰相談をはじめ、アルコール、薬物、思春期、痴呆等の特定相談を含め、精神保健福祉全般の相談を実施する。センターは、これらの事例についての相談指導を行うためには、総合的技術センターとしての立場から適切な対応を行うとともに、必要に応じて関係諸機関の協力を求めるものとする。

(7) 組織育成

地域精神保健福祉の向上を図るためには、地域住民による組織的活動が必要である。このため、センターは、家族会、患者会、社会復帰事業団体など都道府県単位の組織の育成に努めるとともに、保健所、市町村並びに地区単位での組織の活動に協力する。

平成11年4月より、以下の2事業が新たに加わった。

(8) ストレス対策事業

ストレスを避けて通れない現代社会において、すべてのライフサイクルを通じて、メンタルヘルスが重要課題となっている。一般住民の心の健康を維持向上させ、かつ適応障害などの境界域の心の病を持つ人々への社会的支援体制を確立するため、保健所と一体的な地域におけるメンタルヘルス支援体制をはかる。

(9) 薬物相談ネットワーク整備事業

こころの健康センターの薬物相談機能を充実し、それを中核とする薬物相談ネットワークを構築することにより、薬物相談に総合的に対応する体制を整備する。また、相談応需職員の研修を行う。

3. 施設の概要

(1) 所在地

〔昭和61年5月1日～昭和63年10月8日〕

三重県津市桜橋3丁目446－34　三重県津庁舎津保健所棟1階

〔昭和63年10月9日以降〕

三重県久居市明神町2501－1　　三重県久居庁舎

(2) 施設の状況

〔昭和61年5月1日～昭和63年10月8日〕

三重県津庁舎津保健所棟1階　　1室　52.9㎡

〔昭和63年10月9日以降〕

三重県久居庁舎1階

ア　敷地面積（久居庁舎）　　11,617.29㎡

イ　建物面積（本館棟）　　延床面積　5,484.50㎡

ウ　建物構造（本館棟）　　鉄筋コンクリート造4階建、一部5階建

エ　当センター占有面積　　723.0㎡

オ　各室面積

事務室（電話相談室、所長室）65.2㎡　　第1デイルーム　　140.4㎡

第1相談室（脳波、心理検査室）	30.8㎡	第2デイルーム（和室）	44.8㎡
第2相談室	23.9㎡	陶芸室	11.3㎡
第3相談室（診察室）	26.5㎡	更衣室、湯沸室	12.0㎡
図書資料室	37.0㎡	各室面積　計	391.9㎡

〔平成11年8月15日以降増設分〕

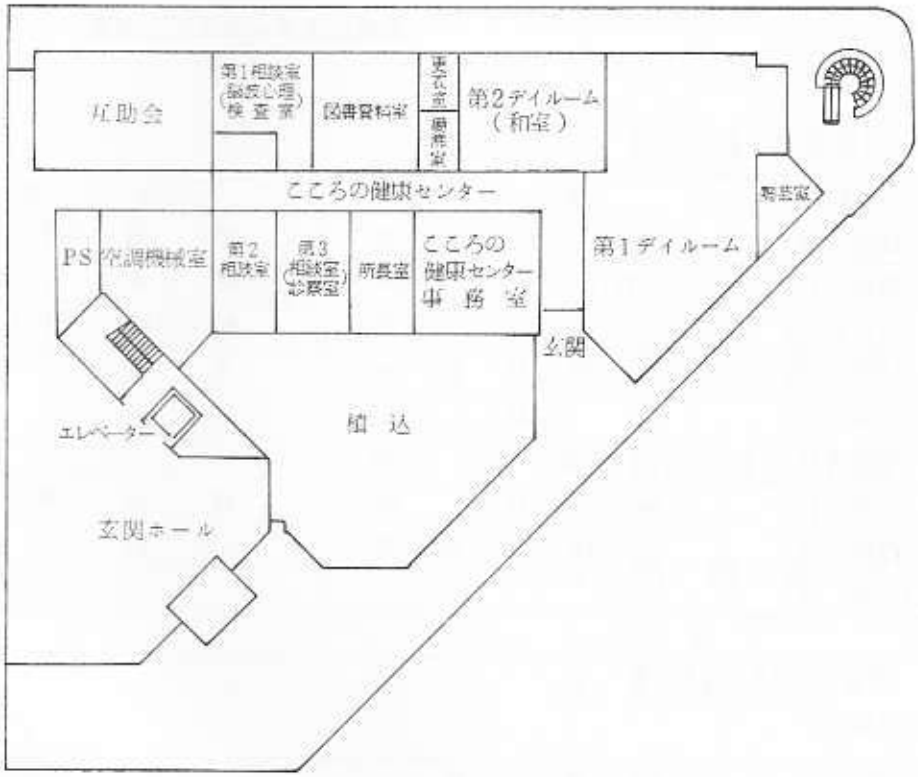
ストレスケアルーム

- ケアルーム　1
- ケアルーム　2
- リラックスルーム

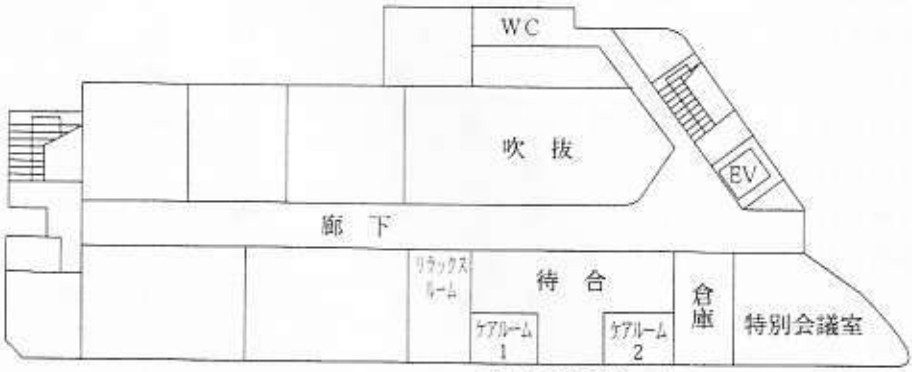
各室面積　計　156.6㎡

（1階）

三重県こころの健康センター平面図



（4階）



ストレスケアルーム

4．組織及び職員

（平成11年8月現在）

所掌事務

- 所長（1）
  - 事務部門（1）
    - 庶務一般
    - 職員の服務
  - 業務部門（7）
    - 企画立案
    - 技術指導・技術援助
    - 教育研修
    - 普及啓発
    - 精神保健福祉相談
      - 来所相談
      - 電話相談（嘱託2）
    - 組織育成
    - 精神障害者福祉推進事業
    - 調査・研究
    - ストレス対策事業
    - 薬物相談ネットワーク事業

※点線枠内は、平成11年度からの新規事業

職員構成

〔平成10年度〕

職名	職種	氏名
所長（技術吏員）	医師	原田雅典
主幹（事務吏員）	精神科ソーシャルワーカー	村木顕太郎
主幹（技術吏員）	医師	松崎まみ
主幹（技術吏員）	心理技術者	久保早百合
主幹（技術吏員）	保健婦	竹内貞子
主任主事（事務吏員）	一般事務	林いつ子
技師（技術吏員）	保健婦	藤田典子
技師（技術吏員）	心理技術者	山口裕子
電話相談員（嘱託）		2名
計		10名

〔平成11年8月現在〕

職名	職種	氏名
所長（技術吏員）	医師	原田雅典
主幹（事務吏員）	精神科ソーシャルワーカー	村木顕太郎
主幹（技術吏員）	医師	松崎まみ
主幹（技術吏員）	心理技術者	久保早百合
主幹（技術吏員）	保健婦	安保明子
主査（技術吏員）	保健婦	藤田典子
主任主事（事務吏員）	一般事務	林いつ子
技師（技術吏員）	心理技術者	山口裕子
電話相談員（嘱託）		2名
計		10名

Ⅱ．こころの健康センターの活動

1．技術指導・技術援助

2．教　育　研　修

3．普　及　啓　発

4．精神保健福祉相談

5．組　織　育　成

6．精神障害者福祉推進事業

7．調　査　・　研　究

○ 1. 技術指導・技術援助 ○

(1) 企画立案

(2) 保健所に対する技術指導・技術援助

(3) 市町村に対する技術指導・技術援助

(4) 福祉機関に対する技術指導・技術援助

(5) 教育機関に対する技術指導・技術援助

(6) 医療機関に対する技術指導・技術援助

(7) 司法機関に対する技術指導・技術援助

(8) 労働・産業機関に対する技術指導・技術援助

(9) 各種精神保健団体に対する技術指導・技術援助

(10) その他の機関・団体に対する技術指導・技術援助

技術指導・技術援助

地域精神保健福祉活動を推進するために、保健・福祉等関係機関に対して、専門的立場から情報提供や助言、講師派遣、コンサルテーション等の技術指導援助を行っている。

平成10年度の関係機関別の技術指導援助の状況は、表1に示すとおりである。

技術指導援助回数は896回で、対前年比は107.8%となっている。

指導した機関は1．保健所（25.0%）、2．教育（19.0%）、3．行政（18.6%）、4．市町村（9.3%）、5．その他（7.5%）の順となっている。

指導内容は、1．連絡調整（22.4%）、2．ケース援助（19.9%）、3．情報提供（18.3%）、4．企画助言（11.2%）、5．研修・研究会（10.7%）の順になっており、指導要請機関、内容は年々多様化しており、教育、行政（福祉・保健を除く一般）、市町村への技術指導援助の増加が著しい。

表1　平成10年度　関係機関への技術指導援助

関係機関	実施回数	参加人数	技術指導援助内容											職種別指導援助回数						
			企画助言	情報提供	ケース援助	事例検討会	デイケア	研修会研究会	連絡調整	委員会会議	行政実施指導	調査研究	その他	DR(A)	PSW	DR(B)	CP(A)	PHN(A)	PHN(B)	CP(B)
	回	人	回	回	回	回	回	回	回	回	回	回	回	回	回	回	回	回	回	回
保健所	224	1,396	32	29	39	8	4	26	49	15	19	2	1	36	6	35	49	86	19	13
福祉機関	57	684	3	12	17	−	−	12	11	1	−	−	1	16	3	6	19	12	3	2
医療機関	46	75	7	20	10	−	−	1	6	−	−	−	2	22	3	2	11	4	4	2
行政機関	167	914	31	35	17	−	−	1	24	23	25	7	4	106	7	24	14	8	3	5
教育機関	170	2,389	13	14	51	5	−	19	58	2	2	5	1	53	10	3	88	14	1	3
市町村	83	832	3	6	30	7	−	22	12	1	−	1	1	9	7	9	25	34	7	3
労働機関	18	21	−	5	6	−	−	−	5	−	−	2	−	2	1	3	4	5	1	2
司法機関	24	172	2	5	3	−	−	2	9	2	−	−	1	4	1	2	15	−	−	2
精神保健団体	32	156	3	17	2	−	−	4	4	−	−	1	1	−	2	4	4	16	4	2
学生教育実習	8	48	−	5	1	−	−	1	−	−	−	−	1	−	−	−	4	3	1	−
その他	67	597	6	16	2	−	−	8	23	2	−	9	1	36	1	9	5	12	4	1
計	896	7,284	100	164	178	20	4	96	201	46	46	27	14	284	41	97	238	194	47	35

表２　関係機関への技術指導援助実績（年度別）

区分＼年度	平成2年度	平成3年度	平成4年度	平成5年度	平成6年度	平成7年度	平成8年度	平成9年度	平成10年度
保健所	199	181	195	203	119	270	345	242	224
行政	40	59	84	113	72	103	129	164	167
市町村	26	16	26	21	32	37	51	71	83
医療	24	43	95	107	46	60	49	36	46
福祉	22	41	48	67	43	31	63	43	57
教育	45	69	78	69	80	106	148	151	170
労働	8	4	26	38	10	22	7	5	18
司法	2	3	5	2	0	2	3	4	24
各種精神保健団体	22	11	18	23	22	31	20	55	32
学生教育・実習	24	35	32	31	22	9	5	7	8
その他	16	26	27	22	4	30	45	53	67
合計	428	488	634	696	530	701	765	831	896

(1)　企画・立案

関係機関の行う精神保健福祉事業に対し、その企画、立案について提言、助言を行っている。

機関別の実施状況は（表１）に示したとおりであるが、地域精神保健の第一線を担っている保健所の精神保健事業に対するものが多く、精神保健業務検討会において、①自助グループの育成について、②精神保健福祉連絡会の活性化、③職業準備訓練に関する検討、④勤労支援の現状と課題、⑤連絡会のあり方に関する検討、⑥ボランティアの活用について、⑦精神障害者社会復帰施設整備について、等がその主な内容である。

次いで、県行政機関が実施する精神保健事業に対するものが多くなっているが、障害保健福祉部門に於いて、①保健医療計画の見直し、②県精神保健福祉の体制全般に関すること、③新規事業の立案（メンタルヘルス関連事業、薬物対策関連事業）、④医療機関指導のための企画等がある。

又、平成10年度は、県職員に対するメンタルヘルス対策のための企画指導が多くなっている。

(2)　保健所に対する技術指導・技術援助

地域精神保健の第一線を担う保健所の技術指導援助はセンター開設以来重点的に進めており、全体の25％を占めている。

保健所の技術指導・技術援助の主な内容及び活動実績は表３に示すとおりである。

表3　平成10年度　保健福祉部（保健所）技術指導援助実施状況（再掲）

保健所 保健福祉部	実施回数（回）	参加人数（人）	指導援助内容（回）										
			企画助言	情報提供	ケース援助	事例検討会	デイケア	研修会研究会	連絡調整	委員会会議	行政実施指導	調査研究	その他
桑名	12	90	1	2	1	−	−	3	2	1	2	−	−
四日市	12	140	−	3	2	−	1	1	2	−	1	2	−
鈴鹿	14	100	1	2	1	−	−	4	2	1	2	−	1
津	18	136	1	4	2	1	−	3	1	4	2	−	−
久居支所	13	65	2	1	4	1	1	1	2	1	−	−	−
松阪	67	299	10	7	14	1	−	9	22	3	1	−	−
南勢志摩	21	98	6	−	3	1	−	−	7	2	2	−	−
志摩支所	26	286	8	4	1	2	−	2	4	2	3	−	−
伊賀	20	104	−	2	7	1	2	1	3	1	3	−	−
紀北	8	35	2	1	3	−	−	1	−	−	1	−	−
紀南	13	43	1	3	1	1	−	1	4	−	2	−	−
合計	224	1,396	32	29	39	8	4	26	49	15	19	2	1

(3)　市町村に対する技術指導・技術援助

市町村への技術指導援助はここ3～4年で急激に増加しており、①ケース援助、②精神保健ボランティア、社会福祉協議会等職員の精神障害を理解するための研修への職員派遣、③精神保健にかかる連絡調整が主な内容である。

又、市町村職員の精神保健に関する理解を求める為、平成9年度から、医師、保健婦、精神科ソーシャルワーカー、心理技術者からなるこころの機動班を編成し、市町村に出向いて健康相談、事例検討会を実施しており、その内容は次の表に示すとおりである。

表4　こころの機動班事業

回	日　時	対象機関・内容	参加人員	支　援　者
1	6／10(水)	名張市保健センター 「精神保健相談と事例検討会」	17人	DR　PHN PSW
2	8／26(水)	嬉野町役場 「町職員が出合うケースへ、対応の仕方や理解について検討する」	13人	DR　PHN PSW
3	9／1(火)	尾鷲市役所 「問題の事例を検討する」	7人	DR　PHN
4	9／30(水)	名張市保健センター 「精神保健相談と事例検討会」	10人	DR　PHN
5	10／14(水)	明和町中央公民館 「精神保健相談と事例検討会」	8人	DR　PHN
6	11／25(水)	名張市保健センター 「精神保健相談と事例検討会」	14人	DR　CP PSW
7	1／20(水)	海山町 「健康づくり学級研修会」	25人	PHN
8	2／24(水)	名張市保健センター 「精神保健相談と事例検討会」	14人	DR　CP PHN

(4)　福祉機関に対する技術指導・技術援助

福祉機関の技術指導援助は、福祉事務所、児童相談所で①ケースの処遇についての助言、②精神障害にかかる情報の提供、③連絡調整、④生活保護ワーカーの精神障害理解のための研修会への講師派遣が主な内容である。

又、県社協が行うホームヘルパー、ボランティアの研修会にも講師を派遣している。

(5)　教育機関に関する技術指導・技術援助

教育機関からの技術指導援助の要望は近年急激に増加してきており、その実績は平成6年から保健所についで2番目となっている。

引きこもり、摂食障害、学習障害等のケース援助が年々増加し、それに伴う①ケース援助、②関係機関の連絡調整、③情報提供が多くなっている。

又、このことに対応するために、教育研究所、教育委員会、各学校等が開催する事例検討会、学校カウンセリング研究会への④企画助言、⑤講師派遣が増加してきている。

(6)　医療機関に対する技術指導・技術援助

医療機関の技術支援は、①全国大会、研修に関する情報の提供、②ケースの援助が主な内容で、ケース援助はカウンセリングの依頼が主である。

(7) 司法機関に関する技術指導・技術援助

技術援助を行った機関は、法務局、警察署、少年サポートセンター、少年鑑別所で、①ケース処遇のための連絡調整、②情報の提供、③ケース対応への助言が主な内容である。

又、警察職員のカウンセリング研修会、こころのケア研修会等への講師派遣を行った。

(8) 労働・産業機関に関する技術指導・技術援助

技術援助を行った機関は、各種企業の健康管理室、労働組合、銀行、税務署、裁判所、建設省等で主な技術援助の内容は、①ケース援助、②連絡調整、③情報の提供、④メンタルヘルスに関する研究会への協力である。

又、ケース支援の為、ハローワーク、障害者職業センターとの連絡、情報提供を行った。

(9) 各種精神保健団体に関する技術指導・技術援助

家族会、ボランティア、小規模作業所、当事者会、AA、NA、DARC、断酒会を運営していくために必要な①情報の提供、②連絡調整、③ケース対応に関する援助、④家族会、作業所等が開催する精神保健福祉の研修会への講師派遣を行った。

(10) その他の機関・団体に関する技術指導・技術援助

その他の機関に対する技術援助は年々増加してきており、平成10年度に技術指導援助の要請があった機関は、女性センター、労働対策センター、介護実習センター、障害児者親の会、女性相談所等で内容は①メンタルヘルス関連情報の提供、②研修会等への講師派遣である。

又、全国の精神保健福祉センターとの連絡調整、調査研究への協力も多くなっている。

○ 2. 教　育　研　修 ○

(1) 精神保健福祉研修

(2) 学生実習

(3) 社会復帰指導者研修（デイケア）

教　育　研　修

(1)　精神保健福祉研修

昭和61年５月、県保健予防課分室として開設された当センターは、主に保健機関の職員を中心とした研修会を実施してきた。

平成元年４月１日付けで県の出先機関としてスタートし本格的に活動を開始した。三重県における精神保健の向上を図る総合的な技術中枢機関としての立場から保健関係外の関連諸機関をも対象とした研修を実施している。

平成10年度は、９本の柱で実施した。保健、福祉、教育、医療、労働、司法等、精神保健福祉推進のため、関連のある機関との連携も教育研修を機としてますます深まってきている。

教育研修、見学、実習等の実施状況は表１のとおりである。また、各々の教育研修については後に詳しく述べる。

表1　研　修　会

教育研修名	実施日	受講対象	受講者数
新任精神保健福祉担当者研修会	平成10年５月29日(金)	市町村福祉・保健、県保健福祉部の関係者	40
思春期関連専門研修会（連続）	平成10年７月28日(火) ７月30日(木)	教育、保健、司法、その他の関係者	204 184
精神保健事例検討会（教育）	平成10年８月５日(水)	教育	77
児童青年精神保健福祉研修会	平成10年８月18日(火)	県保健福祉部関係者、教育	94
東海地区児童思春期精神保健講座	平成11年２月13日(土) ２月14日(日)	福祉、教育、医療、保健、精神保健団体、その他の関係者	130 130
アルコール精神保健福祉研修会	平成10年６月18日(木)	福祉、医療、労働、保健、精神保健団体、その他の関係者	70
地域精神保健福祉研修会	平成11年２月23日(火)	福祉、医療、保健、精神保健団体、その他の関係者	211
精神保健福祉専門研修会 （精神保健福祉相談員継続研修会）	平成10年９月８日(火) ９月22日(火) 10月６日(火)	保健福祉部精神保健福祉相談員、市町村保健婦	50 58 63
老人精神保健福祉研修会	平成10年５月16日(土) 11月７日(土)	福祉、医療、保健、老人施設、その他の関係者	220 161

計14回　1,692名

① 新任精神保健福祉担当者研修会

精神保健福祉についての概要を理解し、地域における精神保健福祉活動の推進を図る。

日　　程	内　　容
平成10年5月29日(金) 9：40～16：00	講義「精神保健福祉行政のあらまし」 県障害保健福祉課　主幹　尾西一夫 「センター事業の概要」 こころの健康センター　主幹　村木顕太郎 「精神疾患のあらまし」 こころの健康センター　主幹　松崎まみ 「精神保健福祉相談のすすめ方」 こころの健康センター　主幹　久保早百合 「地域における精神保健福祉活動」 こころの健康センター　主幹　竹内貞子 「精神保健福祉のあらまし」 こころの健康センター　所長　原田雅典

② 思春期関連専門研修会（連続）

思春期の子どもを取りまく状況は、学校・家庭だけでは対応できないほど深刻なものと成っており、社会全体の病理としてとらえて対応していかなければ改善されないと思われる。

このような状況にある思春期の子どもに対応する関係者がよい援助ができるように、知識の向上を図る。

日　　程	内　　容
平成10年7月28日(火) 10：00～15：00	講義「思春期・青年期の心的発達と課題」 河合塾（臨床心理士）　鈴木誠 「現代の非行の特徴と予防」 津少年鑑別所長　津崎秀樹
平成10年7月30日(木) 10：00～15：00	講義「薬物依存」 県薬務食品環境課　主幹　山口哲夫 「思春期精神医学と治療」 斉藤メンタルクリニック　院長　斉藤聡明

③ 精神保健事例検討会（教育）

不登校の事例を通して現代の中、高校生のもつ心の問題を知り学校保健に於ける精神保健活動のありかたについて考える。

日　　程	内　　容
平成10年8月5日(水) 13：30～16：30	事例名 「不登校－適応指導教室に2年間通級したA男の場合」 事例提供者　松阪教育研究所　高橋光彦 助言者 県立小児心療センターあすなろ学園　主幹兼室長　久保義和

④ 児童青年精神保健福祉研修会

カウンセリング技術について学び、若者の中に起っているいじめ、非行、不登校、自殺、家庭内暴力、ひきこもり等の問題について考え、良い対応が出来るように質を高める。

日　　程	内　　容
平成10年8月18日(火) 10：00～16：00	講義演習「思春期の心をつかむカウンセリングの技術」 日本女子大学　教授　増野　肇 （精神科医）

⑤ 東海地区児童思春期精神保健講座

三重県・岐阜県・静岡県・愛知県の四県合同で、安田生命社会事業団の支援のもとに行う。

児童思春期の問題に対処するため、児童思春期の精神保健にかかわる方々を対象として、専門知識の習得や技術の向上を図り、あわせて学校や教育相談所、児童相談所、保健所、病院、精神保健福祉センター等、地域精神保健に携わる各機関および専門家の連携（ネットワーク活動）を促進していくことを目的とする。

日　　程	内　　容
平成11年2月13日(土) 10：30～17：00	講義「思春期心性の理解と診断」 東海大学医学部　教授　山崎晃資 事例検討　1（4グループ） 事例検討　2（4グループ） スーパーヴァイザー　東海大学医学部　教授　山崎晃資 椙山女学園大学人間関係学部　教授　成田善弘 メンタルクリニックタダ　院長　大嶋正浩 社会保険中京病院心理室　室長　米倉五郎
平成11年2月14日(日) 10：30～16：30	「ネットワーク事例発表」 司会　静岡県こころと体の相談センター精神保健福祉センター　所長 佐野光正 発表　愛知県東三河子どもメンタルネット・愛知県知多メンタルヘルス・静岡県こころと体の相談センター・三重県松阪地方県民局保健福祉部 思春期フォーラム －子どもは今、子ども・家庭からのSOSに応えて－ 基調講演「キレる子ども・キレるこころの理解と援助」 大正大学人間学部　教授　村瀬嘉代子 シンポジウム 司会　岐阜県精神保健福祉センター　所長　池田康修 三重県こころの健康センター　所長　原田雅典 シンポジスト岐阜県　東海女子大学　星　融 静岡県東部健康福祉センター　大石英二 愛知県知多保健所　円谷俊夫 三重県立津東高等学校　藤牧　恵 コメンテーター　山崎晃資 村瀬嘉代子

⑥ アルコール精神保健福祉研修会

アルコール依存症は年々増加の傾向にあり、世界的にも大きな社会問題となっている。

また、アルコールに起因する問題は多岐にわたり多くの家族崩壊を来している。

アルコール依存症について適切な支援ができるよう、関係者がその病理について正しく理解することが大切である。

アルコール依存症の予防と早期治療をめざして、依存症とその家族を支援していくうえでの方策を考える。

日　　程	内　　容
平成10年6月18日(木) 14：00～16：00	講演「アメリカのアルコール医療」 講師　前国立久里浜病院長　林　田　　基

⑦ 地域精神保健福祉研修会

最近、「人格障害」ということが注目され、よくとりあげられるようになってきた。また関心も高まっており、地域においてもこのような人たちが、増えてきている。

「人格障害」について、正しい知識を習得し、支援について考える機会とする。

日　　程	内　　容
平成11年2月23日(火) 13：30～15：30	講演「人格障害を語る」 講師：慶応大学・東京国際大学教授　小此木　啓　吾

⑧ 精神保健福祉専門研修会

精神保健福祉相談員及び精神保健福祉相談担当者等の資質向上を図ることにより、地域精神保健福祉活動の推進に寄与することを目的とする。

日　　程	内　　容
平成10年9月8日(火) 9：30～16：00	講義「ケースマネージメント」 講師：埼玉県立精神保健総合センター　作業訓練課長（医師） 野　中　　猛 事例提供者：南多摩県民局　保健福祉部　志摩支所保健婦 大　西　真由美
平成10年9月22日(火) 10：00～15：00	講義「トラウマと家族」 県立高茶屋病院　主幹兼心理室長（臨床心理士） 杉　野　健　二 「トラウマと人格障害」 こころの健康センター主幹（医師）　松　崎　ま　み 「トラウマと適応障害」 こころの健康センター所長（医師）　原　田　雅　典
平成10年10月6日(火) 13：30～15：30	講義「精神障害者の地域生活支援」 全精社協　事務局長　新　保　祐　元

⑨ 老人精神保健福祉研修会

高齢者人口の増加に伴って、痴呆症老人の増加が予測されている。とりわけ、痴呆老人のケアは介護者の身体的、精神的負担は大きい。

一方地域においては、家族の介護力が低下している現在、施設型サービスだけでなく在宅ケアサービスの充実強化が望まれている。

特有の精神症状や問題行動をおこす痴呆性老人とその家族のニーズにあった適切な支援ができるよう、地域における在宅ケアのあり方について考える。

日　　程	内　　容
平成10年5月16日(土) 15：00～17：00	講　演 座長　三重大学医学部精神神経科助教授　井上　桂 「精神科外来で診る痴呆」 小山田記念温泉病院精神科　中林正人 特別講演 座長　三重大学医学部神経内科教授　葛原茂樹 「"もの忘れ外来"4年－早期アルツハイマー型痴呆の経過」 国立精神神経センター武蔵病院　副院長　宇野正威
平成10年11月7日(土) 15：00～17：00	講　演 座長　三重大学医学部精神神経科助教授　井上　桂 「在宅老人と介護保険」 社会福祉法人高山福祉事業協会　在宅介護支援センター長 中村　薫 特別講演 座長　三重大学医学部精神神経科教授　岡崎祐士 「介護保険導入あたっての問題点」 医療法人近森会常務理事　近森病院リハビリテーション科長 石川　誠

⑩ その他

センターで主催する教育研修については、別表の通りであるが、また、関係機関が実施する専門的な教育研修について、講師派遣の依頼があった。(別表)

教育研修会講師派遣分

教育研修名	実施回数	受講者数
三重大学医学部チュートリアル教育第7ユニット	1	100
PSW現任者講習会	1	60
第2回老人性痴呆疾患対策研修会	1	20

計　3回　180名

(2) 学生実習

受講者名	実施回数	受講者数
日本福祉大学４年	12	12
三重大学医学部精神科研修医	1	7
三重大学医学部学生	3	18
三重県立看護短期大学	1	34
三重大学教育学部卒業生	1	1

計 18回 72名

(3) 社会復帰指導者研修（デイケア）

保健所における社会復帰相談事業にかかわる職員の技術向上を図るため、さまざまな複雑困難な事例を対象に、技術的方法、処置、援助方法等を実習、理論的研修を通じて学び、今後の精神保健業務に幅広く対応できる職員の養成を図ることを目的とし、平成元年より実施している。

３ヶ月を１クールとして実施し、今年度の受講生は、１名で平成10年９月～11月に行った。

《精神障害者集団活動（デイケア）》

社会復帰指導者研修会の実習の場として、精神障害者集団活動（デイケア）を平成元年７月より実施している。又、精神保健ボランティア教室、学生の実習の場としても活用されている。実施要領は下記のとおりである。

● 目　的

在宅精神障害者に対し、個別、集団活動を通じて対人関係の改善、社会的習慣の確立、就労意欲の向上など、社会生活の自立を図る。

● 対　象

センター来所者及び保健所、病院などから紹介のあった者で、本人及び保護義務者の希望する者の中から、次によってセンターが決定する。

1．精神障害の回復期にあたって、社会復帰をめざしている者。

2．自宅より通所が可能な者。

3．年齢15歳以上で通所可能な者。

4．定員は25人とする。

● 実施日時

毎週月曜日、午前９時30分～午後３時までとする。

● 期　間

期間は１年とする。ただし、通所期間を更新する場合は、１年毎に継続申込書を提出する。

● 実施場所

原則として、こころの健康センター内で行う。

● 費　用

参加費は無料。

ただし交通費及び昼食代、材料費、特別活動に要する費用は本人負担とする。

● 指 導 者

原則として、センターの職員をもって行うが、内容によっては外来講師及び一般協力者の参加を得て行う。

● 主な活動内容

1．集団活動

プログラムの内容は、創作、スポーツ、料理、話し合い、野外活動等メンバーの話し合いにより決定する。

2．個別相談

定期的に個別相談と随時家庭訪問を行う。

3．会　議

・スタッフミーティング　毎週月曜日（午後3時30分～5時）

・通所決定会議（随時）

【申し込み→DC見学、インテーク面接（家族同伴）→申込書提出→通所決定会議→結果通知】

4．通所申込書、同意書

参加にあたり本人、家族より「通所申込書」・「同意書」（様式1・2）を得る。

5．記　録

・デイケア業務日誌を作成する。

・個人の活動については「個人参加記録」に記入する。

● 平成10年度実施状況

1．年間実施回数　43回（週1回）

2．年間参加者数　延人数　516人

実人数　34人

3．平均1回当り参加者数　12人

4．年令別参加者数

年令／性別	20～24	25～29	30～34	35～39	40～44	45～49	50～54	計
男	1	2	4	3	6	1	4	21
女	2	0	5	2	2	1	1	13
計	3	2	9	5	8	2	5	34

5．保健福祉部管内別参加者数

桑　名	鈴　鹿	津	久居支所	松　阪	南勢志摩	伊　賀	計
1	5	12	7	6	2	1	34

○ 3. 普　及　啓　発 ○

(1) センターだより「こころの健康」の発行

(2) 所報の発行

(3) こころのケアガイドブックの発行

(4) 講演活動

(5) こころの健康づくりフェスティバル

普　及　啓　発

(1)　センターだより「こころの健康」の発行

当センターでは普及啓発活動の一環としてセンターだより「こころの健康」を年3回発行している。平成10年度は№35～37を発行した。

内容について、今年度より新たに「ボランティア活動報告記」（県内精神保健ボランティアグループの活動紹介）、「こころの職人がゆく！」（インタビューによる各精神保健専門職種の仕事内容と人物の紹介）、「ギャラリーKOKORO」（当事者の作品紹介）、「こころって何だろう？」（"こころ"についてのコメント）等のコーナーを設け、より広い意味での「こころ」についての情報提供と啓発を目指した。

各号の内容は、下記のとおりである。

発行年月日	内　　容	執筆者（敬称略）
<№35> 平成10年 7月14日	「精神科救急医療システムの導入」 ペンリレー「私のこころの健康法」（最終回） 「こころって何だろう？」 作品紹介 家族会紹介「こんにちは　ひのきの会です！」 「ボランティア活動報告記」 作業所紹介「ふれあい工房誕生のよろこび」 平成10年度研修計画	県障害保健福祉課主幹　尾西　一大 前川　憲司 当事者・ボランティア・新任精神保健福祉担当者 当事者 ひのきの会（尾鷲） ボランティア千姫（桑名） ふれあい工房（志摩）
<№36> 平成10年 11月16日	<特集：被害者の心の傷> 巻頭言「犯罪被害者への支援活動について」 「被害者から聞こえる"音"」 「被害少年に対する支援活動」 「交通事故の被害者に対する情報提供について」 施設紹介「地域生活支援センターHANA」 「ボランティア活動報告記」 「ギャラリーKOKORO」 「こころの職人がゆく！」 「こころって何だろう？」 ご案内	県警察本部被害者対策室室長　南川　正 県警察本部女性被害捜査係　木村　智春 県警察本部被害少年対策係　伊藤千佳子 県警察本部交通捜査 HANAセンター長　神谷　恭子 ほほえみ（伊賀） 当事者 津保健福祉部児童グループ（旧中央児童相談所）臨床心理士　籠谷　博子 こころの健康センター電話相談員　今井　英子 こころの健康センター電話相談員　曽根　基之
<№37> 平成11年 3月19日	<特集：母子のメンタルヘルス> 巻頭言「母親のこころ」～母親のこころのサポート～ 「河芸町における母子保健事業の充実を目指して」 「支援事業をとおして～子育て不安を解消する場として～」 「子育てサークルに参加して」 施設紹介「わかば共同作業所15周年記念集会にて」 「ボランティア活動報告記」 「ギャラリーKOKORO」 「こころの職人がゆく！」 「こころって何だろう？」 お知らせ	三重県立看護大学教授　村本　淳子 河芸町保健センター 津市高茶屋保育園 各地域子育てサークルメンバー わかば共同作業所所長　伊藤　博子 ハートフル会（四日市） 当事者 松下電子部品㈱松阪健康管理室 産業医　瀬口みち子 産業カウンセラー　伊澤　晴子 松阪教育事務所学校教育室　福島　紅葉

(2) 所報「こころの健康センター所報」平成９年度版の発行

平成10年11月に1000部発行し、関係諸機関へ配付した。

(3) こころのケアガイドブックの発行

県内のこころのケアの関係機関の情報をガイドブックにまとめ、関係機関がネットワークに役立てるよう配付を行った。

こころのケアガイドブック（Ａ４版　46ページ）　　1,000部

(4) 講演活動

精神保健に関する知識の普及啓発を目的とし、関係諸機関からの要請により実施した。

今年度の講演等の実施回数は75回で、対象者は3,818名であった。講演等の内容は、ライフサイクルにおける心の健康、職場や地域における精神保健、精神障害者の社会復帰など多岐にわたっている。

また、派遣先もその領域が広がり、多方面からの要請が増え、今後ますますセンターへの期待が大きくなっていくことが予想される。

	老人精神保健	思春期	アルコール	社会復帰促進	その他	計
保健所	－	－	－	15	－	15
	－	－	－	267	－	267
福祉機関	－	－	－	5	2	7
	－	－	－	184	60	244
行政機関	－	－	－	－	－	－
	－	－	－	－	－	－
教育機関	－	6	－	－	8	14
	－	1,560	－	－	487	2,047
市町村	－	－	－	2	18	20
	－	－	－	45	494	539
その他	－	1	－	7	11	19
	－	100	－	207	414	721
計	－	7	－	29	39	75
	－	1,660	－	703	1,455	3,818

※上段　回数

下段　人数

1．保健所

実施年月日	件　数	内　　容	対象者	人数	主催者	派遣者
H10．6．5	精神保健ボランティア継続研修	よりよい人間関係づくりのために	ほほえみ会員他	23	伊賀県民局保健福祉部	C　P
10．6．23	伊勢地域精神保健連絡会	ライフサイクルと精神疾患	伊勢管内関係者	23	南勢志摩県民局保健福祉部	D　R
10．6．24	精神保健ボランティア継続研修	こんなときどうするの	ボランティア千姫会員	8	桑名保健福祉部	C　P
10．6．25	家族会、ボランティア交流会	精神障害者を生き生きさせるため家族、ボランティアに期待する事	家族、ボランティア	26	南勢志摩県民局保健福祉部志摩支所	PHN
10．7．2	ひまわり会学習会	デイケアに参加するボランティアの役割	ひまわり会会員	11	紀南保健福祉部	PHN
10．7．3	海山町ヘルスサポーター研修会	精神障害者を理解し共に暮らすとは	海山町ヘルスサポーター	18	紀北保健福祉部	D　R
10．7．10	精神保健ボランティアベルの会研修会	よりよい人間関係づくり～よい「ききて」になるために	ベルの会会員他	18	鈴鹿保健福祉部	C　P
10．7．22	伊賀ひまわり家族会勉強会	よい家族関係を築いていくために	ひまわり家族会会員他	11	伊賀県民局保健福祉部	PSW
10．9．25	精神保健ボランティア講座	精神障害とは	ボランティア教室生	22	津保健福祉部	D　R
10．10．7	精神保健福祉講座	こころに病をもつ人へのかかわりとは	ボランティア教室受講生	23	四日市保健福祉部	C　P
10．10．15	精神障害者家族交流会	心の負担を軽くしよう	精神障害者家族、病院PSW他	22	鈴鹿保健福祉部	PSW
10．10．20	ボランティア研修会	精神障害者にかかわるために	ウェーブ志摩メンバー、保健	16	南勢志摩県民局保健福祉部志摩支所	C　P
10．10．30	精神保健ボランティア教室	精神障害者の接し方	教室生、保健婦	15	津保健福祉部	C　P
10．11．27	家族勉強会	心の病について～病気を正しく理解して、本人も家族もより健康にすごすために	精神障害者家族	19	桑名保健福祉部	D　R
11．2．10	家族教室	家族のこころのリフレッシュ	家族会、作業所関係者	12	津保健福祉部	C　P
計			267			

2．福　祉

実施年月日	件　数	内　　容	対象者	人数	主催者	派遣者
H10．8．7	ボランティアスクール	こころを病んだ人と付き合うには	ボランティアスクール生他	24	一志町社会福祉協議会	C　P
8．25	精神障害者に係る研修会	精神障害者福祉と精神疾患について	福祉事務所職員、福祉関係	17	伊賀県民局保健福祉部	D　R
8．31	民生委員研修会	心の健康について	民生委員	30	一志町社会福祉協議会	D　R
9．11	精神保健ボランティアスクール	地域における精神保健活動	鈴鹿市社協ボランティアスクール	20	鈴鹿社会福祉協議会	PSW
10．28	電話相談ボランティア養成講座	女性の心	ボランティア	30	四日市女性センター	D　R
11．30	ホームヘルパー研修	精神障害者を理解するために	ホームヘルパー、社協職員	23	津市社会福祉協議会	D　R
12．9	県ホームヘルパー協議会研修会	心の病とその対応	県内ホームヘルパー	100	県社協（ホームヘルパー協会）	D　R
計			244			

3．教　育

実施年月日	件　数	内　　容	対象者	人数	主催者	派遣者
H10．6．1	メンタルヘルス・リーダー研修	心の病の理解	津管内校長	46	県教育委員会福利課	D　R
6．17	鈴亀研一斉研修会	保健室における児童生徒の対応	養護教諭他	20	亀山市教育委員会	C　P
7．31	教育講演会	教職員のメンタルヘルスを考える	桑名市、桑名郡内の小中学	200	桑名市教育研究所	D　R
8．1	カウンセリング研修会	カウンセリング技術について	中学校教員	20	津市立南郊中学校	C　P
8．28	いじめ問題公開講座	パネルディスカッション「子ども達の心にどのようにせまり対応していけばよいのか」	小、中、高校教諭、一般	630	県総合文化センター中ホール	C　P
9．10	家庭教育学級	子どもの心を育むために	南が丘小学校保護者、校長	28	南が丘小学校	PSW
9．16	ふれあい教室	不登校の子どもを理解するために	保護者、適応指導教室教員	11	桑名市教育委員会	C　P
10．17	PTA研修会	思春期の心をめぐって	PTA	80	鈴鹿中学校PTA	D　R
11．15	育友会講演会	今、子どもの心を育むために	治田小学校PTA	100	治田小学校育友会	PSW
11．25	保健講座	自分自身の見つけ方、見つめ方	三重高等学校生徒、教諭	810	三重高等学校	C　P
11．26	カウンセリング研修会	カウンセリングをめぐって	教員	13	松阪市立東黒部小学校	D　R

実施年月日	件　数	内　　容	対 象 者	人数	主 催 者	派遣者
H10.12.17	学校保健会	今、子どもの心を育むために	雲出小学校保健委員会	50	雲出小学校	PSW
H11.1.27	ふれあい教室保護者会	思春期のこころを理解するために	保護者、担当教諭	9	桑名教育研究所	C P
1.27	家庭教育学級	今、幼児の心を育むために	母親、園長	30	津市立藤水幼稚園	PSW
計			2,047			

4．市町村

実施年月日	件　数	内　　容	対 象 者	人数	主 催 者	派遣者
H10.5.22	母子保健推進員研修会	面接、訪問のテクニック	母子保健推進員、保健婦	35	津市保健センター	PSW
5.26	母親教室	子どものこころをはぐくむために	菰野町母親学級受講者	16	菰野町役場	PHN
5.30	健康づくり教室	女性のこころの健康について	健康づくり教室受講生	10	烏ヶ原村役場	D R
7.4	健康づくり大会	自分磨き、年齢とともに～こころの健康づくりについて～	町民等	70	阿児町役場	D R
7.7	津市健康推進員研修会	ストレスと上手に付き合う	健康推進員	31	津市保健センター	PHN
7.13	のびのび子育て広場	心の子育て	母親	21	白山町役場	C P
8.3	ひよこ教室	赤ちゃんはこんなことしてほしいの	母親	10	河芸町保健センター	PHN
8.19	母親教室	子どものこころをはぐくむために	妊婦	22	菰野町役場	PHN
8.21	精神保健ボランティア教室	心理トレーニング「よりよい出会いのために」	ボランティア教室受講生	15	明和町役場	C P
9.14	健康づくり推進員研修会	演習「サイコドラマでリフレッシュしましょう」講義「子どもの心を育てる」	母子保健推進員、一般、保健婦	40	小俣町役場	C P
9.29	子育て教室	乳幼児の心の発達と親のかかわり	子育て教室登録者、看護婦	29	河芸町保健センター	C P
9.30	幼児教室	心の子育て	母親、保健婦	8	志摩町保健センター	C P
10.22	ヘルスアップ教室	女性のメンタルヘルス～いきいきと過ごすために～	教室生、保健婦	33	伊勢市保健センター	D R
11.11	精神保健講座	精神障害者とともに生きるために	紀和町民生委員	30	紀和町役場	D R
11.17	母親教室	子どものこころをはぐくむために	菰野町母親学級受講者	19	菰野町役場	PHN

実施年月日	件　数	内　　容	対 象 者	人数	主 催 者	派遣者
H10.11.24	すくすくひろば（育児教室）	心の子育て	母親、保健婦	23	三雲町役場	PHN
H11.1.22	こころの健康について考えるシンポジウム	精神科医からみた現代の構図	民生委員、保健委員、一般	80	名張市保健センター	D R
1.29	子育て教室（ひよこくらぶ）	子どもの心を育てるために	母親、保健婦	15	大台町役場	C P
2.16	母親教室	子どもの心を育むために	妊婦	12	紀野町役場	PHN
2.24	母親教室	今、幼児のこころを育むために	保育園入園前の両親	20	宮川村役場	PSW
計			539			

5．その他

実施年月日	件　数	内　　容	対 象 者	人数	主 催 者	派遣者
H10.4.23	津西ライオンズクラブ定例会	心の障害と上に親しむこと	津西ライオンズクラブ会員	50	津西ライオンズクラブ	D R
4.25	青少年市民会議	思春期の心の問題について	市民	100	亀山市青少年育成市民会議	D R
5.20	ふるさと会　総会	家族のかかわりと対応について	ふるさと会会員、ボランティア他	26	ふるさと会（家族会）	PHN
5.28	「人権擁護委員の日」記念講演会	精神障害者の理解と対応について	人権擁護委員	60	津人権擁護委員協議会	D R
6.17	てのひら例会	ボランティアさんに感じてほしいこと	てのひら会員	11	てのひら（精神保健ボランティアグループ）	C P
6.19	南紀家族会学習会	作業所設立に向けて	南紀家族会会員、メンバー	15	南紀家族会	PHN
7.8	被害少年対策実践塾	「サイコドラマ」を通して事例を考える	警察官、少年補導員	28	県警察本部少年課	C P
7.21	健康づくり講座	ライフサイクルと心の健康（中高年の心の健康）	健康づくり講座受講生	24	みえ社会保険センター	D R
8.19	女性部講演会	職場のメンタルヘルス	市職員	100	鈴鹿市職員労働組合	D R
9.18	出前トーク	女性・家庭のメンタルヘルス	沙羅の会会員	18	県広報公聴課	D R
11.6	出前トーク	女性・家庭のメンタルヘルス	老人施設友愛トピア職員	30	県広報公聴課	D R
11.24	出前トーク	女性・家庭のメンタルヘルス	島薬会（答志島）会員	30	県広報公聴課	D R
12.17	職場研修会	職場のメンタルヘルス	桑名税務署職員	40	桑名税務署	D R
H11.1.12	教養講座	職場のメンタルヘルス	四日市税務署職員	60	四日市税務署	D R

実施年月日	件　数	内　　容	対 象 者	人数	主 催 者	派遣者
H11. 1.18	職場の精神衛生講座	職場のメンタルヘルス	三重県労働金庫管理職、他	37	三重県労働金庫	D R
1.19	健康づくり教室	心の健康ライフサイクルと心の健康（中高年の心の健康）	教室受講生	22	みえ社会保険センター	D R
2.19	まつの会勉強会	ひきこもりについて	家族会会員、ボランティア、当事者	27	松阪地域家族会まつの会	D R
2.26	衛生講話	職場のメンタルヘルス	職員	25	NHK津放送局	D R
3.31	みしま会例会	当事者と家族と家族会活動	家族会会員、保健所担当者	18	志摩地区家族会みしま会	D R
計			721			

(5) 第8回こころの健康づくりフェスティバル

こころの健康づくりフェスティバルは、県内の社会復帰施設、共同作業所のメンバー、保健所、病院、センターデイケア等地域社会の中で生活し、社会復帰を目指す精神障害者の人々が一堂に集まり、家族、ボランティア、各関係機関の参加のもとスポーツ、レクリエーションなどを通して交流し、互いの理解を深め、社会復帰を図ることを目的として平成10年10月24日久居市総合体育館にて実施した。

フェスティバルの成果をより高めるためデイケア実施保健所、病院等、40の関係機関からなる実行委員会を設置し、具体的な内容、準備等について検討を行い当日は500名近い参加者となった。回を重ねる毎に年1回のフェスティバルを心待ちにしてくれている人や、団体間交流の場にもなっている。

	日　　時	場　　所	参加人員
第1回実行委員会	平成10年6月11日	こころの健康センター	50
第2回実行委員会	平成10年9月18日	こころの健康センター	41
こころの健康づくりフェスティバル	平成10年10月24日	久居市総合体育館	500
反省会	平成10年12月9日	吉田山会館	7

こころの健康づくりフェスティバルを始めて8年が経過し、地域でも小さなフェスティバルが開催されるようになってきた。その内容も知的障害、身体障害、精神障害の3障害が法的に一本化されるに伴い、3障害合同のミニフェスティバルが始まり、センター主催のフェスティバルの役割は終わり、今後もボランティアも巻き込んだ3障害合同のこころの健康づくりフェスティバルへと発展させていかねばならないと考えている。

みんなで楽しく、あ・そ・ぼ!

第8回

地域 社会参加にむけての交流の場

こころの健康づくりフェスティバル

とき:平成10年10月24日(土)AM10:30~PM3:00

ところ:久居市総合体育館

久居市野村町877-1 TEL059-255-6081
最寄駅より徒歩15分 駐車場300台収容
陶器、デイケア等の作品展示もあります。

協力企業

井村屋製菓株式会社
富士カントリー榊原温泉ゴルフ倶楽部
株式会社 おやつカンパニー
雪印乳業株式会社
丸英陶器株式会社
三重県科学技術振興センター農業技術センター
サンジルシ醸造株式会社
大成印刷株式会社
三重ヤクルト販売株式会社
三重耕農社
大塚製薬株式会社
株式会社アタケ津営業所

●お問い合わせ先 三重県こころの健康センター 三重県久居市明神町2501-1 TEL059-255-2151

○ 4. 精神保健福祉相談 ○

(1) 精神保健福祉相談
（こころの健康相談・こころのテレフォン相談）

(2) 思春期講座

精神保健福祉相談

(1) 精神保健福祉相談

精神保健福祉相談事業は、「こころの健康相談」（来所相談）と「こころのテレフォン相談」（電話相談）に分けられる。

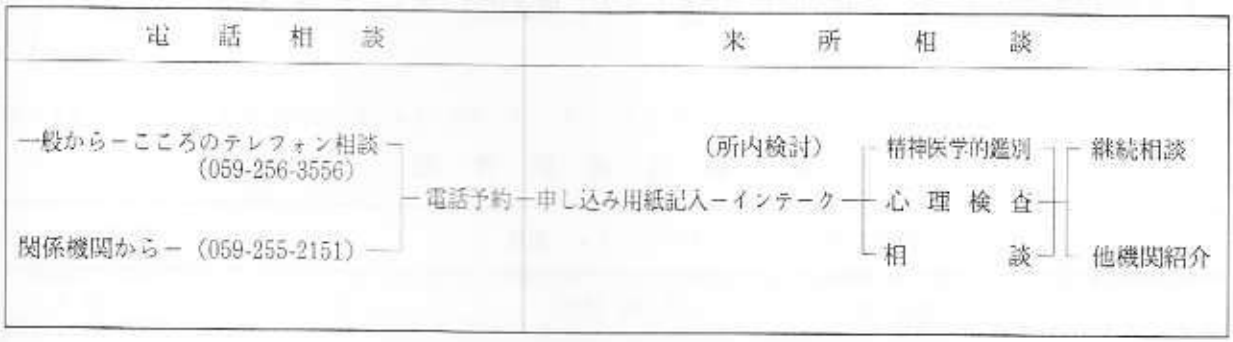
「こころの健康相談」は、思春期・老年期・アルコールのような特定相談も含め、毎週火・木を原則として相談に応じてきた。しかし相談者数の急増にともなって他の曜日にも随時予約をとり対応してきた。平成10年度の相談員は、医師２名（所長、精神科医１名）、保健婦（精神保健相談員）２名、精神科ソーシャルワーカー１名、心理技術者２名の計７名である。

「こころのテレフォン相談」は、毎週月～金曜日の午前10時～午後４時まで、専用電話にて相談に応じている。その対応は専任の嘱託相談員（看護職）２名があたっている。

また、時間外については、留守録を利用し、必要な場合には、翌日センターから連絡をとる体制にしている。

相談の流れは、図１に示してある。この基本的な考え方は所内でそれぞれの専門職種が互いに検討を行い、それぞれの相談内容に適した方法がとれるようになっている。

図1　相　談　の　流　れ



平成10年度における相談の概要は以下のとおりである。

相談件数は、表１のとおりで、前年度と比べると、来所相談が114%、電話相談が120%で、共に増加しているが新規件数は、共に減少している。全体の相談件数は118%の増加となっている。

表１　平成10年度　相談件数

		件　数	構成比
こころの健康相談		1,243 (155)	19.3
こころのテレフォン相談		5,187 (723)	80.7
再掲	思春期	412 (183)	6.4
	老年期	198 (57)	3.1
	アルコール	21 (16)	0.3
計		6,430 (878)	100.0

※（　）内は新規件数再掲

最近5年間の年度別相談件数の推移は表2のとおりである。電話相談の増加は著しいが、来所相談に関しては、他事業との関係で日程の調整がつかない場合もあり、1000件前後を推移している。

表2　精神保健相談件数（年度別）

		平成6年度	平成7年度	平成8年度	平成9年度	平成10年度
こころの健康相談（来所相談）		1,344 (104)	1,073 (96)	955 (91)	1,089 (170)	1,243 (155)
こころのテレフォン相談		2,472 (361)	2,946 (488)	3,448 (675)	4,340 (728)	5,187 (723)
再掲	思春期	279 (133)	345 (140)	395 (164)	462 (175)	412 (183)
	老年期	134 (33)	199 (34)	209 (56)	185 (52)	198 (57)
	アルコール	1 (1)	5 (5)	13 (13)	21 (14)	21 (16)
計		3,816 (465)	4,019 (584)	4,403 (766)	5,429 (898)	6,430 (878)

※（　）内は新規件数再掲

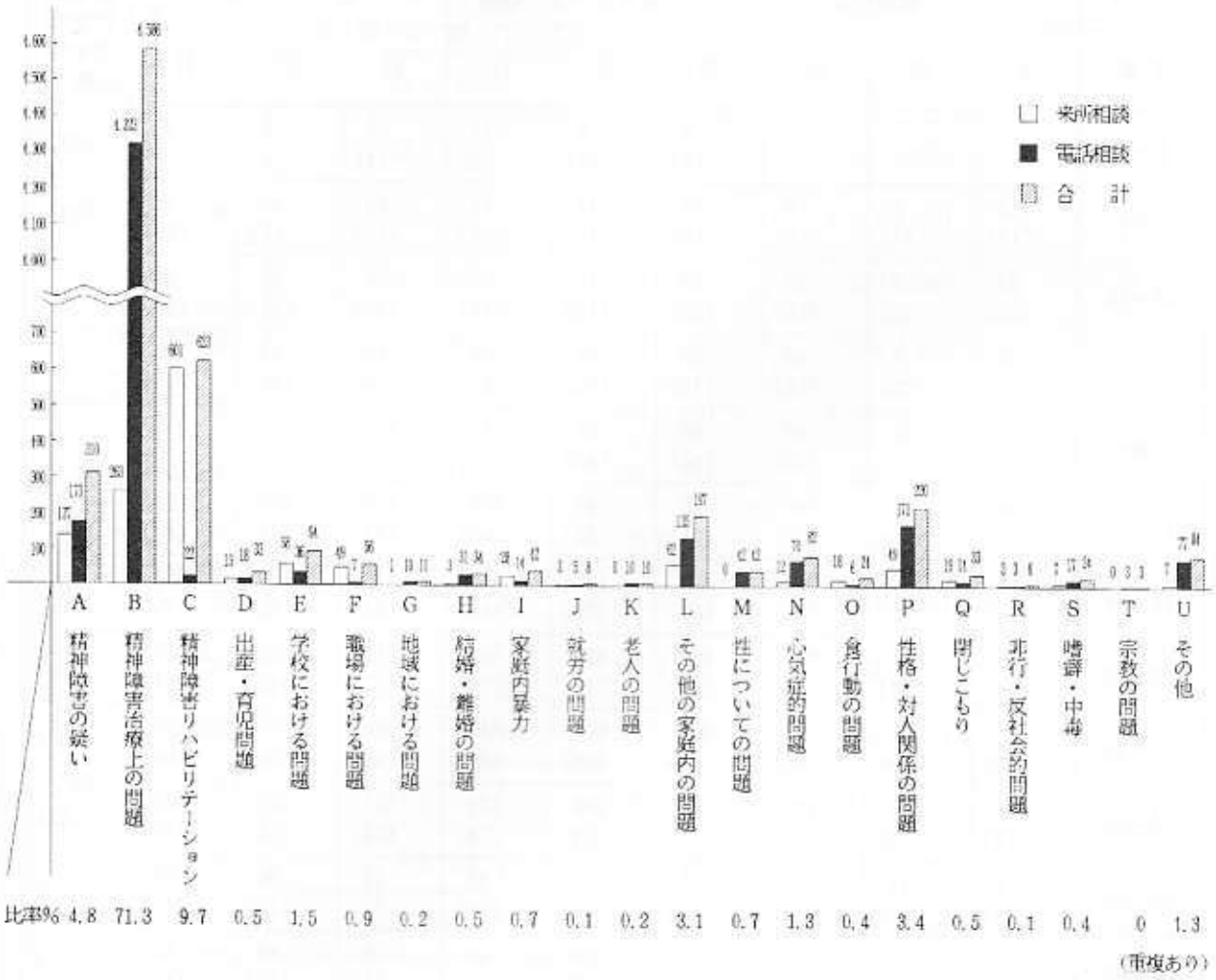
相談者別件数（表3）は、全体的に増加しているが、構成比は、本人による相談の割合が更に高くなっている。

表3　相談者別件数

	こころの健康相談	こころのテレフォン相談	計	構成比%
本人	1,056 (95)	4,742 (430)	5,798 (525)	90.2
家族	168 (54)	386 (257)	554 (311)	8.6
その他	19 (6)	59 (36)	78 (42)	1.2
計	1,243 (155)	5,187 (728)	6,430 (878)	100.0

※（　）内は新規件数再掲

図2　相談内容別件数



相談内容別件数は、図2に示してある。内容を大きく分けると、精神障害に関したもの（精神障害の疑い、精神障害治療上の問題、精神障害リハビリテーション）と適応障害（図D～U）に分けることができる。精神障害に関したものは、全体の91.8%と昨年同様高くなっており、中でも、精神障害治療上の問題が、71.3%で半数以上を占め、昨年より更に高い割合となっている。

適応障害の方をみてみると、D，H，I，J，K，Lを含めた家庭内の問題が4.9%、適応障害の中では、60%を占め、最も多くを占めている。次が性格・対人関係の問題で3.4%で昨年より増加、次が、学校における問題で1.5%となっている。昨年度と比べ、増加が著しいのは性についての問題（0.4%から0.7%）、食行動の問題（0.15%から0.4%）、閉じこもり（0.1%から0.5%）である。

表4　年代別、性別　相談件数

区分	こころの健康相談			こころのテレフォン相談			合計			総相談件数に対する比率(%)
年齢	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
0～5				5 (4)	6 (4)	11 (8)	5 (4)	6 (4)	11 (8)	0.2
6～12	12 (3)	2 (1)	14 (4)	10 (8)	11 (8)	21 (16)	22 (11)	13 (9)	35 (20)	0.5
13～15	27 (10)	8 (2)	35 (12)	38 (23)	15 (12)	53 (35)	65 (33)	23 (14)	88 (47)	1.4
16～18	35 (10)	5 (3)	40 (13)	33 (19)	29 (22)	62 (41)	68 (29)	34 (25)	102 (54)	1.6
児童計	74 (23)	15 (6)	89 (29)	86 (54)	61 (46)	147 (100)	150 (77)	76 (52)	236 (129)	3.7
19～22	56 (10)	60 (10)	116 (20)	60 (31)	46 (31)	106 (62)	116 (41)	106 (41)	222 (82)	3.5
23～29	96 (14)	114 (22)	210 (36)	323 (67)	125 (76)	448 (143)	419 (81)	239 (98)	658 (179)	10.2
30～39	150 (14)	252 (24)	402 (38)	461 (55)	1,806 (118)	2,267 (173)	611 (69)	2,058 (142)	2,669 (211)	41.5
40～49	164 (12)	67 (8)	231 (20)	204 (37)	1,612 (48)	1,816 (85)	368 (49)	1,679 (56)	2,047 (105)	31.8
50～59	88 (1)	69 (4)	157 (5)	33 (20)	138 (54)	171 (74)	121 (21)	207 (58)	328 (79)	5.1
60～64	6 (1)	18 (3)	24 (4)	5 (4)	78 (9)	83 (13)	11 (5)	96 (12)	107 (17)	1.7
65～69		7 (1)	7 (1)	5 (5)	39 (9)	44 (14)	5 (5)	46 (10)	51 (15)	0.8
70～		1	1	10 (10)	29 (15)	39 (25)	10 (10)	30 (15)	40 (25)	0.6
成人計	560 (52)	588 (72)	1,148 (124)	1,103 (229)	3,873 (360)	4,976 (589)	1,663 (281)	4,461 (432)	6,124 (713)	95.2
不明	1 (1)	5 (1)	6 (2)	27 (13)	38 (20)	65 (33)	28 (14)	43 (21)	71 (35)	1.1
合計	635 (76)	608 (79)	1,243 (155)	1,215 (297)	3,972 (426)	5,187 (723)	1,850 (373)	4,580 (505)	6,430 (878)	100.0

※（　）内は新規件数再掲

次に、年代別、性別相談件数（表4）をみてみると、年代別には来所相談・テレフォン相談ともに30代が最も多く、次が40代であり、30代、40代で、73.3%を占めるのは昨年と同様である。

性別には、来所相談は、総件数は男性の方が多く新規件数はほぼ同数となっている。テレフォン相談は、例年通り、女性が圧倒的に多く、男性の3.2倍となっている。30代、40代、で特に女性が多い。これは、電話常習者が数名いるため特に多くなっている。新規件数で比較しても女性が1.4倍になっている。但し、児童では、男性が多くなっている。

表5　保健所管内別相談件数

保健所	こころの健康相談	こころのテレフォン相談	計	構成比（%）
桑名	44（ 5）	118（72）	162（77）	2.5
四日市	56（11）	233（94）	289（105）	4.5
鈴鹿	155（14）	962（65）	1,117（79）	17.4
津	345（47）	663（152）	1,007（199）	15.6
久居支所	212（15）	173（72）	385（87）	6.0
松阪	173（18）	2,519（59）	2,692（77）	41.9
南勢志摩	95（11）	198（56）	293（67）	4.6
志摩支所	12（ 6）	30（21）	42（27）	0.6
伊賀	121（17）	61（35）	182（52）	2.8
紀北	22（ 7）	27（10）	49（17）	0.8
紀南	3（ 1）	13（10）	16（11）	0.2
県外	3（ 2）	138（39）	141（41）	2.2
不明	2（ 1）	52（38）	54（39）	0.9
計	1,243（155）	5,187（723）	6,430（878）	100.0

※（　）内は新規件数再掲

次に、保健所管内別相談件数（表5）をみてみると、来所相談では津・久居が多く、この2保健所管内で全体の44.8%を占める。次に松阪・鈴鹿と続く。志摩・紀北・紀南は少なく、地理的な要因は大きいと思われる。テレフォン相談は、松阪保健所管内が特に多く、全体の48.6%を占める。電話常習者が数名いるため、多くなっている。次に鈴鹿・津と続くのは、昨年と同様である。又、県外からの相談者が3.1倍に増加している。新規件数をみてみると、来所相談では、桑名・志摩・紀北・紀南が少なく地域差がみられるが、テレフォン相談では、紀北、紀南を除いては、地域差は少なくなってきており、昨年と同様の傾向がみられる。

<特定専門相談>

思春期相談

表6　思春期内容別相談件数

	来所相談（%）	テレフォン相談（%）	計（%）
総件数	191（100.0）	221（100.0）	412（100.0）
A 精神障害の疑い	45（23.6）	28（12.7）	73（17.7）
B 精神障害治療上の問題	39（20.4）	57（25.8）	96（23.3）
C 精神障害リハビリテーション	12（6.3）	2（0.9）	14（3.4）
D 出産・育児の問題	2（1.0）	−	2（0.5）
E 学校における問題	30（15.7）	23（10.4）	53（12.9）
F 職場における問題	2（1.0）	2（0.9）	4（1.0）
I 家庭内暴力	8（4.2）	5（2.3）	13（3.1）
L その他の家庭内の問題	2（1.0）	11（5.0）	13（3.1）
M 性についての問題	−	22（9.9）	22（5.3）
N 心気症的問題	−	7（3.2）	7（1.7）
O 食行動の問題	8（4.2）	3（1.4）	11（2.7）
P 性格・対人関係の問題	24（12.6）	41（18.5）	65（15.8）
Q 閉じこもり	15（7.9）	6（2.7）	21（5.1）
R 非行・反社会的問題	3（1.6）	1（0.4）	4（1.0）
S 嗜癖・中毒	−	3（1.4）	3（0.7）
U その他	1（0.5）	10（4.5）	11（2.7）

思春期は、中学生から大学卒業までの年齢（13歳〜22歳）を考えている。表6に思春期の相談内容別件数を示した。

来所相談は、191件あり、来所相談全件数の17.8%を占めている。内容別にみると、精神障害の疑いが最も多く、45件で、次に精神障害治療上の問題、学校における問題と続いている。精神障害に関することと適応障害と大体、半々となっている。

テレフォン相談は、221件でテレフォン相談全件数の4.3%である。内容別にみると精神障害治療上の問題、性格、対人関係の問題が多く、精神障害の疑い、学校における問題、性についての悩みと続く。テレフォン相談の方は、適応障害が60.6%で精神障害に関することより多くなっている。

昨年に比べ、増加が著しいのは、食行動の問題と閉じこもりとなっている。

老年期相談

表7　老年期内容別相談件数

	来所相談（%）	テレフォン相談（%）	計（%）
総件数	32（100.0）	166（100.0）	198（100.0）
A 精神障害の疑い	8（25.0）	30（18.1）	38（19.2）
B 精神障害治療上の問題	19（59.4）	89（53.6）	108（54.6）
G 地域における問題	−	1（0.6）	1（0.5）
J 就職の問題	−	1（0.6）	1（0.5）
K 老人の問題	−	10（6.0）	10（5.1）
L その他の家庭内の問題	5（15.6）	17（10.3）	22（11.1）
N 心気症的問題	−	2（1.2）	2（1.0）
P 性格・対人関係の問題	−	4（2.4）	4（2.0）
S 嗜癖・中毒	−	5（3.0）	5（2.5）
U その他	−	7（4.2）	7（3.5）

60歳以上の老年期の相談は、今年度は198件であり、全件数の3.1%である。内容別件数は、表7に示してあるように、来所相談では、精神障害治療上の問題が多く、テレフォン相談でも、精神障害治療上の問題が多く、次に精神障害の疑い、その他の家庭内の問題と続き、昨年と同様である。又、精神障害に関するものが73.7%と多い傾向は老年期に関しても同じようにみられる。

アルコール相談

アルコール相談の件数は、今年度は21件で昨年と同件数で全件数の0.3%である。アルコールに関する相談はアルコール専門病棟をもつ県立病院が隣接市にあることや、各保健所で相談を行っていることにより、例年通り、当センターにもちこまれることは少ないと思われる。

(2) 思春期講座

思春期は子どもから大人への過渡期であるといわれ、過渡期であるがゆえに精神的な不安定さを生ずる。殊に現代社会のような社会変動が著しい状況においては、思春期が不安定さを特徴とする。そのためさまざまな心の問題が生じやすくなる。

登校拒否、家庭内暴力、非行など、思春期の心の問題が具体的な行動上の問題となって現れ、マスコミを始めとし社会的な関心が高まっている。

また、拒食症、心身症なども増加の傾向にある。

よく知られているように社会変動は文化的経済的な急激な変化だけでなく社会の基盤にある構造そのものもかわりつつある。このような時代的な流れの中で、家族の役割も不安定なものにならざるを得ない。

思春期の不安定さを安定化させる役割が家族の中にあると考えた時、家族の役割が不安定になることは、思春期の心の健康を考えていくうえで、重大な危惧を生ずる。

このような視点から今回の思春期講座は、この時期の子供をもつ家族を対象に、5回の連続講座をもち、各分野の立場から「思春期とは」の講義と話し合いをもった。その中で思春期における心の問題と家族の役割を見直すこととした。

《平成10年度思春期講座の概要》

● 目　的

思春期は人間の一生の中でも身体的、社会的、心理的にも変動の著しい時期で、この時期は、さまざまな心の揺れを持ち不安定になりやすい。時には、不登校、家庭内暴力、心身症などの思春期における心の問題が生じる。

この講座では、思春期の子どもをもつ家族に対して「思春期とは」の理解を深め、この時期の子どもを支えるための知識・理解を深める。

● 実施主体　三重県のこころの健康センター

● 期　間　平成10年11月12日～平成11年3月11日

毎月一回（第2木曜日）　午後1時30分～午後3時30分

※但し2月のみ第3木曜日

● 場　所　三重県のこころの健康センター

● 対象者　思春期の子どもをもつ家族で、連続して講座に参加できる方

● 内　容　講義　グループワーク

● 定　員　20名

● 受講料　無料

● 申込方法および期日

別紙申込書により、三重県こころの健康センターへ申し込む

締切り10月23日（但し定員になり次第締切る）

平成10年度　思春期講座プログラム

期　　日	内 容 お よ び 講 師
平成10年 11月12日	思春期の心と身体 宝積クリニック院長（精神科医）　宝　積　己知子
12月10日	思春期と学校 県立津東高等学校　教諭　藤　牧　　恵
平成11年 1月14日	思春期と家族 市立伊勢総合病院　精神科（臨床心理士）　鹿　海　令　子
2月18日	グループワーク 思春期の体験を通して子どもを理解する こころの健康センター　主幹（臨床心理士）　久　保　早百合
3月11日	グループワーク 子どもの自立をめぐって こころの健康センター　主幹（臨床心理士）　久　保　早百合

〈第1回〉

宝積クリニックの宝積院長が、「思春期の心と身体」について、思春期とライフサイクル、思春期の特徴、身体の変化にたいする心理的反応、クリニックで出合う思春期の身体症状等の内容の話をされた。

思春期の子どもは、身体の変化を多少不安でも大人になっていく自分を受け入れていくが、なかには、身体の変化を認めまいとする子ども達がいる。そのような子どもの身体やその変化への意味づけについて話をされた。まだ“思春期の言い分”とし本の中から川柳などを引用され、子ども達の思いをわかりやすく説明された。

〈第2回〉

県立津東高等学校の教育相談を担当されている藤牧先生は、「学校はどうなっているのか」「不登校の子ども達に対して学校としてどう対応すればよいのか」など、具体的に事例をとおしてとりあげられた。学校現場における努力を現場の先生の視点から話された。

またスクールカウンセラーと教育相談の役割を担う教諭との連携により、よい結果を生んだ事例についても話された。

〈第3回〉

市立伊勢総合病院、臨床心理士の鹿海先生は、エリクソンの理論を用い思春期を話された後「家族とは何か」を家族発達の段階、システムとしての家族、を理論的に説明され、事例を用いて親の役割を述べられ、これからの家族のあり方など話された。

〈第４回〉

サイコドラマの形式で、ロールプレイングを通して、思春期の子ども達の心の動きを理解する試みを行った。参加者の方々自身が思春期の時代を回想させられることになり、楽しい気持ちになった方もみえれば、葛藤的な気持ちになった方もあったようである。いづれにしても、それぞれの参加者の方が、思春期の気持ちを体験したことについて、今後、子ども達の心の理解の為に役立つという、好意的な評価であった。

〈第５回〉

参加者を２グループに分けて、それぞれ自由に討議の場をもった。思春期ＯＢ会員より、体験談を聞き親として、この時期の子どもにどう対応すればよいかなど、思春期の子どもの問題について、積極的に考えようとする姿勢がうかがわれた。このように親が自ら考えようとする姿勢がでてきたことは、この講座の意図する、親自身が問題を考え、親自身の姿勢を自ら考えるという目的の出発点であると思われる。また思春期講座修了後月１回開かれている、思春期ＯＢ会への参加希望者はほとんどであった。

思春期講座の経過

参加者は25名であり、そのうち12名が個別相談を希望された。参加者地域を保健所管内別にみていくと、伊賀９名、津（久居含）８名、松阪３名、四日市２名、桑名、鈴鹿、紀南が各１名であった。

今回は、参加者の半数近くの方が個別相談を希望されるなど、親が、より深く子どもを理解しようとする気迫が感じられた。

内容別では、不登校、摂食障害、閉じこもりといった状態から、子どもの反抗、友人関係の不安など幅広いものであった。

また思春期ＯＢ会員からの参加者も７名あった。

思春期をとりまく、さまざまな現状に、親としての対応の難しさが強く感じられた。

○ 5. 組　織　育　成 ○

(1) 家族会・リーダー研修会

(2) 精神保健ボランティア教室

(3) 思春期アドバイザー養成講座

(4) 断酒会・アルコールネットワーク

組　織　育　成

(1)　家族会・リーダー研修会

①　家族会

〈三重県精神障害者家族会連合会（三家連）〉

三家連は発足以来30年が過ぎようとしている。会員の高齢化や会員の確保などの問題を抱えながらも、地域においては、保健、医療、福祉等関係機関の連携強化に加えて、精神保健ボランティアの支援を得て、精神障害者の社会復帰など様々な活動への取り組みがなされている。

センターは家族会の育成とともに、こうした関係領域拡大と連携の強化を目指して指導援助を行った。

三家連の運営に関する指導助言はもとより、例年開催される、三家連精神保健福祉大会の企画、運営や三家連誌「あゆみ」の編集のほか、三家連が主催する「家族会リーダー研修会」への協力、三家連役員と所長の懇談会などを行っている。

〈精神障害者地域家族会〉

県内の地域家族会は現在、病院家族会５ヶ所、地域家族会12ヶ所が活動している。平成８年までは地域家族会は８ヶ所であったが志摩、紀北、紀南管内に家族会が結成され全県下の拠点が網羅された。地域家族会の援助は、主に保健所において開催されている各家族会の定例総会への参加や、会独自で計画された研修への講師派遣等行ってきた。

	回（件）数	対象者延人数
家　族　会	17	434

平成10年にかけて家族会が中心となり14ヶ所の共同作業所が開設され、地域の受け皿作りへの積極的な取り組みが行われてきており、センターとしては（保健所とともに）作業所を訪問し、処遇の個別相談や、情報提供、各関係機関との連絡調整の援助を行ってきているが、各家族会とも役員の高齢化が進み、会の運営に悩みが生じてきている。

②　リーダー研修会

保健所を拠点とした地域家族会活動の推進を図るため、平成２年度から表記の研修を開催している。今までは地域家族会を主体としていたが、病院家族会、社会復帰関連施設職員も含め、精神障害者の社会復帰体制の整備を促進することを目標に研修を行った。

	研　修　内　容	参加者数および対象者
平成10年 10月６日 13:30～15:30	講演「精神障害者の地域生活支援」 全国精神障害者社会復帰施設協会 事務局長　新　保　祐　元	46名 共同作業所所長、指導員、家族会会員、社会復帰施設指導員等

(2) 精神保健ボランティア教室

● 目　　的

精神障害者の治療や、社会復帰に対する考えは、従来の入院治療中心から、地域精神医療へと次第に視点を移してきている。

このような状況のもとでは、社会資源をいかに有効に活用するかが精神障害者の社会復帰を促進していくうえで重要な要素となる。特に人的資源について考えるなら、従来は医師、看護婦、ソーシャルワーカー、保健婦などの専門的な人々によって支えられてきたが、地域に根ざした生活の場（共同作業所や回復者クラブ、共同住居など）が、志向されている現在の状況のもとでは、専門家集団による力だけでは、その目的を達しえない。むしろ、より広く、人的資源を求めていくことで、これを支え押し進めていくことができるものと期待されている。

そこで、このような人材を精神保健ボランティアとして、育成していくことを目的として、ボランティア教室を催すものとする。

● 主　　催　　三重県こころの健康センター

● 日　　時　　平成10年8月4日（火）～11月19日（木）
　　毎月第1、3木曜日　13:30～15:30（第1回のみ火曜日）

● 会　　場　　三重県こころの健康センター

● 対　　象　　精神保健やボランティア活動に興味があり、受講後ボランティアとして活動する意志のある方および受講を通して自己の心の健康づくりを図ろうとする方。

● 内　　容　　別表プログラムのとおり。

● 費　　用　　受講料は無料とする。

● 募集方法　　一般公募

● 申し込み方法及び期日
　　直接、電話でこころの健康センターに申し込む。
　　申し込み受付期間　7月1日（水）～7月17日（金）
　　但し、申し込みが定員を上回る場合は抽選により受講者を決定する。

精神保健ボランティア教室実施状況

(ア) 内容（プログラム）及び受講者

実施日		内容		参加数
第1回	8月4日(火)	開講式 オリエンテーション 自己紹介	講義「ボランティア活動とは？」 三重県社会福祉協議会地域福祉部主査 蒔田勝義	29
第2回	8月20日(木)	心理トレーニング「よりよい出会いのために」 三重県こころの健康センター主幹 （臨床心理士）　久保早百合		31
第3回	9月3日(木)	講義「ライフサイクルと心の健康」思春期・青年期 三重県こころの健康センター主幹 （精神科医）　松崎まみ		30
第4回	9月17日(木)	講義「地域における精神保健福祉活動について」 三重県こころの健康センター主幹 （保健婦）　竹内貞子	当事者からのメッセージ	28
第5回	10月2日(木)	座談会 精神障害者を支えて… －家族会、作業所職員の願い－	施設見学実習の説明	26
第6回	10月	施設見学実習 「精神障害者共同（小規模）作業所・保健所デイケアなど」		30
第7回	11月6日(木)	座談会 施設見学実習をして… －体験実習の情報交換と精神障害者に対する新たな思いについて－		28
第8回	11月20日(木)	精神保健ボランティアグループの活動紹介 座談会 今考えよう！　私たちのできること、「これからの活動」 閉講式		29
			延べ参加者数	231

(イ) 受講者の内訳

表1　性・年代別

	男	女	計
30代	－	5	5
40代	－	8	8
50代	－	7	7
60代	4	7	11
計	4	27	31

表2　職業

職業	数
無職	4
主婦	16
看護婦	1
施設職員	1
ヘルパー	1
講師（華道等）	3
その他	5

表3　ボランティア経験

	数
なし	15
あり	16

表4　教室終了後の状況

内　　容	人 数	内　　容	人 数
すでに活動していた	3	活動したいがまだ開始してない	7
新たに活動開始	9	就労、家事等で活動はできない	5
		教室受講中断者　他	4

(ウ) まとめ

① 今年度は、募集の際「精神障害者のためのボランティア」と教室の目的を明確に打ち出したことにより、応募者総数は減少したものの、参加目的が明確なためか、教室参加率、ボランティア定着率は昨年を上回る結果となった。

② ボランティア定着率の上がった要因の一つに、実習の際に作業所やデイケアの場でその地域のボランティアと面識がもて、先輩ボランティアが上手にグループに引き入れてくれたことが挙げられる。

③ 今年度は、プログラムの中に新しく「家族の声」を聴いてもらうセッションを加えたことにより、精神障害者や家族の生活についてより具体的に伝えることができた。

④ 活動はしたいものの実行できていない群には、身近に活動場所がない事や、思いはあっても出ていく踏ん切りが付かないものなどがある。

今後、活動場所の確保や活動のつなぎについて各保健福祉部と連携をとり進めていく必要がある。

精神保健ボランティア教室修了者の活動状況

当センターの精神保健ボランティア教室修了者の中から「至心会」という精神保健ボランティアグループが平成2年1月に結成され、平成4年10月には「三重てのひら」と改称しボランティア活動を続けている。

当初は、こころの健康センター事業への協力、地域家族会への支援が中心の活動であったが、平成5年度は、精神障害者共同（小規模）作業所「工房T&T」開所に向けての資金作り、家屋の提供など積極的なボランティア活動を展開し開所に至らせた。またそのほかに平成7年1月発生した阪神大震災では、救援物資を集めて送る等のボランティア活動も熱心に行われた。このような活動の功績が認められ平成7年12月5日の第28回精神保健三重県大会において三重県精神保健協議会会長表彰を受けた。

現在、会員は男女あわせて83名で桑名から志摩までの広い地域にわたっており、主に地域の共同作業や保健所のデイケア等で活動をしている。

（具体的な活動内容）

- 精神障害者の家族会活動への協力
- 共同作業所への支援
- こころの健康センターや保健所の実施している社会復帰事業への協力
- 精神保健福祉に関する各種研修会への参加及び協力
- 総会、役員会、例会の開催
- 会報「三重てのひら」の発行
- 広報、啓発活動
- ボランティア資金獲得活動（バザー）
- 他のボランティアグループとの交流

また、保健所および社会福祉協議会が中心となって養成した精神保健ボランティアグループを合わせると、県内に７つの精神保健ボランティアグループができあがっている。

そこで、精神保健ボランティア教室（第８回）終了後に各グループの代表者が、活動の現状等を話し合った結果、互いの情報交換や交流をしたいという要望があり、今後は、県内のグループで協議会結成の方向へということなった。

(3) 思春期アドバイザー養成講座

思春期講座の参加者の中から、有志が中心となりＯＢ会が結成され、５年が経過した。親自身が思春期講座修了後、自分達の姿勢を変えていく必要を感じ、それを具体的に行っていこうとする親の熱意が感じられる。現在、毎月１回定例会をもっている。この会では、思春期の子どもに対して、どのような対応をしていけばよいのか、またできるのかを会員相互に具体的に相談しあっている。また、地域で同じような悩みをもつ親に対してよき相談相手となっている会員も増えつつある。このように体験に基づいた話し合いは、会員相互の理解を深め、また具体的な対応を導きだすものとなっている。地域で子どもの対応に困っている家族に対して、身近に相談にのれるように、月１回の例会と、知識を身につけていただく講座をもうけている。

≪平成10年度　思春期アドバイザー養成講座の概要≫

● 目　　的

思春期の子どもを取りまく状況は、学校・家庭だけでは対応できないほど深刻なものとなっており、社会全体の病理としてとらえていかなければ改善されないと思われる。

このような状況にある思春期の子どもをもつ家族に対して、地域の中で良き支援者となれるようにする。

● 実施主体

三重県こころの健康センター

● 場　　所

三重県久居市明神町2501－1（☎ 059－255－2151）

県久居庁舎　2F　25会議室

● 受講対象者

思春期講座の終了者でアドバイザー養成講座を受講希望の者

● 内　　容

日　時	内　　容	参加人数
平成10年 7月28日(火) 10：00 ～15：00	講義「思春期・青年期の心的発達と課題」 河合塾相談室カウンセラー（臨床心理士）　鈴　木　　誠 「現代の非行の特徴と予防」 津少年鑑別所長　津　崎　秀　樹	23名
平成10年 7月30日(木) 10：00 ～15：00	講義「薬物依存」 県薬務食品環境課主幹　山　口　哲　夫 「思春期精神医学と治療」 斉藤メンタルクリニック院長　斉　藤　聡　明	17名
	計	40名

◎ グループワーク

毎月第4木曜日　14：00～16：00

11回　参加者数　延べ118人

思春期アドバイザー養成講座の経過

例会は平成10年4月から平成11年3月まで12月を除き実施した。毎月約11名の参加者があり、研修会は2日間で延べ40名が参加した。例会では、自分の子どもの対応についての悩みを話し合ったり、克服した会員からメッセージをもらったり、講習会に参加した会員から、話の内容を聞いたり、地域で相談を受けている方への支援について相談したりなど、さまざまな内容であった。

(4) 断酒会・アルコールネットワーク

三重断酒新生会は昭和47年に結成され、アルコール依存症の自助組織として独自の活動を行っている。6ブロック15支部で各々例会（月1～4回）を開催している。

アルコールネットワークは、断酒会、医療機関、相談機関等から成る連携組織で、啓発活動などを行っている。

この他県内では、AA（Alcoholics Anonymous）グループ活動も、津市で週1回開催されている。

家族支援としては、「家族例会」が本部・中勢・上野・南勢地域で、アラノングループが桑名市で開催され、それぞれの地域に根ざした活動が行われている。

AC（Adult Child）サポートとしては、治療グループと自助グループの両要素をもつグループ「Wings」が津市で月1回開催、体験交流や勉強会を行っている。

こころの健康センターでは、断酒会との共催による研修やセミナーの開催、アルコールネットワーク活動等を中心とした協力支援を行っている。

平成10年度の協力支援状況は次の通りである。

日　時	内　　容	参 加 者
平成10年 6月18日(木) 14：00 ～16：00	＜アルコール精神保健研修会＞ ・連続講座「アメリカのアルコール医療」 講師　林　田　　基 （前国立療養所久里浜病院長・現横浜舞丘病院長） ・三重断酒新生会会員からのメッセージ 三重断酒新生会事務局次長　山　口　博　夫	関係職員・断酒会員・家族　等 70名
平成11年 2月4日(木) 13：30 ～16：00	＜アルコールネットワークセミナー＞ 講演「アルコール依存症者の早期発見と介入」 講師　県立高茶屋病院　猪　野　亜　朗 ロールプレイ「介入方法を考える」 ・助けを求めない人への初期介入 ・単身者で再飲酒している人への介入 意見交換 助言者　県立高茶屋病院　猪　野　亜　朗	関係職員・断酒会員・家族　等 45名
アルコールネットワーク　10回		

○　6．精神障害者福祉推進事業　○

(1)　精神障害者就労相談

(2)　精神障害者自立援助

(3)　社会復帰関連施設支援

精神障害者福祉推進事業

精神保健の施策は、昭和62年及び平成５年の法律改正により、精神障害者の人権に配慮した適正な精神医療の確保や、社会復帰の促進を図るため様々な措置が講じられ、平成５年12月に障害者基本法が成立し精神障害者が基本法の対象として明確に位置づけられ、これまでの保健医療施策に加え、福祉施策の充実を図ることが求められることとなった。

さらに平成７年５月には精神障害者の福祉施策や地域精神保健福祉施策の充実を図ること等を目的に「精神保健法」から「精神保健及び精神障害者福祉に関する法律」に改正され、精神障害者の自立と社会参加のための援助という福祉の要素が位置づけられた。こうした状況を踏まえ、こころの健康センターでは、精神障害者福祉推進事業として**１）精神障害者就労相談２）精神障害者自立支援３）社会復帰関連施設支援**の事業を行ってきた。

(1)　精神障害者就労相談

デイケアに通うメンバーは、何度も就労の失敗体験を重ねた人達がほとんどである。仕事そのものへ技量はあり、働きたいという願望も強いが、いざ社会に飛び込もうとする時、今までの失敗体験や対人関係への不安、病気の波に対し、続けられるかという心配が就労へのこころの壁となっている。

家族や社会の目は、これ以上ないという職場を世話しても長続きしないメンバーの失敗に“外見上どこも悪くないのにサボり病”という目でしかみられず、精神的に追い詰めている家族が多い。

この事業は、かれらの障害をフォローし、デイケアプログラムの一つの選択肢として就労前の実習体験（仮称…グループアルバイト）を計画した。

この事業を実施するにあたり、頭を痛めたのがこの事業を理解しメンバーを雇ってくれる雇用先の開拓と、対象者の選定であった。週１回、２時間程度、できるだけ来客の少ない所で、いつ休むかしれない、という身勝手な条件であったが、センターから５分ほどの所に「ミスタージョン株式会社」久居店があり、そこの理解と、協力で平成10年３月末ようやく開始の運びとなった。

仕事先は確保できたが、まず問題となったのがアルバイト契約を交わすとき、履歴書に入院期間をどう記入するか、ということであった。幸い店長の配慮で、就労経験の記載で了解を得た。メンバーは今までの経験から、病気について職場で話せば白い目で見られ、言わなければ健常者と同様の厳しい環境に置かれることを承知している。店長に彼らの病気は傷つきやすい性格を持っている人であることを伝え、店長以外できるだけ伏せていただきたい事、メンバーに注意しなければならない事案は職員を通していただくことの了解を取り付けた。採用面接の時、店長から身だしなみに気を付け、来客者に対しては大きな声で「いらっしゃいませ」、質問されたら「私はアルバイトです。店のものに聞いてまいりますのでしばらくお待ち下さい」の、３条件をマスターするよう指示された。

職域は店側の配慮で比較的来客の少ない〔工作機械、金物売り場〕の商品補充作業を考えていただいた。何百種類という品物の中から同じ品物を見つけ同一個所へ掛ける作業、ノルマはないが、来客者か

ら品物の場所を聞かれたり、商品の専門的な用途を聞かれることもしばしばであった。

この一年間3名のメンバーがこのグループアルバイトを経験し、2名が継続し、1名が失敗している。2名が継続できている背景には、(1)3名の援助者がいたこと。1名はジョブコーチとしてセンター職員がバックにつき、1名は時計コーナーに店の専門家がおり、もう1名は同一個所で働いてくれるパートの職員が配属されていたことである。(2)メンバーに客への対応技術の就労経験があったこと、(3)働いたお金を生活の足しにしたい、趣味の費用にしたいという動機付けがあったことが、持続の背景と考えられる。

失敗した1名の背景は、(2)や(3)が不足していたことに加え、自分は8時間働きたいという願いが強く、彼自身の自我肥大の問題を見抜けずアルバイトを押し付けたためと思われる。

平成11年4月からメンバー2名は、センター職員の援助なしに3時間のアルバイトに行きはじめている。かれらが今、喜んで出かける大きなモチベーションは、今では何よりパート職員さんらが彼らの労働を期待し、かれらが働きに来てくれることを待っていてくれていることである。

	回（件）数	対象者延人数
グループアルバイト	36	83

《精神障害者就労相談（グループアルバイト…仮称）実施要領》

● 目　的

精神障害者にとって現代社会の就労環境は厳しく、また就労できたとしてもストレスを高め失敗体験を繰り返すケースが多い。デイケアや作業所では適応しているケースでも、一人で社会に飛び込む体験はかなりの勇気と自己管理が必要であり、仲間とともに関係者が支え、安心して就労体験が出来る機会を設ける。

また、メンバーが実社会に触れる機会のみならず、このアルバイトを通し、雇用主はじめ関係者の理解を得る機会とする。

● 対　象

在宅の精神障害者で、同一のデイケア、作業所に通所している2人以上のメンバー。

● 実施主体

三重県こころの健康センター

● 協力機関

ボランティア、関係企業

● 実施内容

①実働は最高でも1日2～3時間とし、心身の負担とならない程度とする。

②メンバーは2人以上ボランティア、センター職員で構成する。

デイケア、作業所のメンバーがこの事業に参加する時、所属職員1名の参加を原則とする。

③アルバイト料は雇用主との協議とする。

(2) 精神障害者自立援助

目　的

精神障害者の自立と社会参加を目指した、精神保健および精神障害者福祉の総合的な社会復帰対策が始まっている状況の中で、各地で精神障害者自身が自ら福祉や保健・医療対策の向上に向けて様々な取り組みが始まっている。

地域の中でたくましく生活している仲間が交流する事により、精神障害者の自立と社会復帰、社会参加の促進を図る。

オレンジハートクラブ

毎週金曜日はセンターの第1デイルームをデイケアのメンバーに開放しており、少数のメンバーが利用していた。当初よりメンバーが自由に出入りし、自由に過ごす憩いの部屋として利用されていた。そこで、グループ化を意識させるため平成9年度に「オレンジハートクラブ」と名付けた。

活動状況

回数	延べ参加数	平均参加数	内　　容
52	264	5.1	カラオケ、将棋、雑談、など

グループ活動（再掲）

年　月　日	参加数	内　　容
10. 7. 18(土)	4	昼食会 「べてるの家」のビデオの感想の話し合い等
9. 12(土)	6	昼食会 ビデオ「おかえり」の観賞と話し合い
12. 11(土)	9	忘年会（昼食とカラオケ）

(3) 社会復帰関連施設支援

平成10年度に新設された作業所は、2施設であった。(表1)

また社会福祉法人「社会復帰施設」が11年度開設にむけての準備期間でもあった。(表2)

平成11年度　社会復帰関連施設支援状況は、(表3)のとおりである。

表1　平成10年度設立　小規模作業所

施　　設	設立月日	住　　所	設置主体
小規模作業所　「南紀サンサンワーク」	10年7月	熊野市有馬町401－6	南紀家族会
小規模作業所　「フェアワークス下野」	11年2月	四日市市西大鐘町1519	村上　操子

表2　平成11年度設立予定　社会復帰関連施設

施　　設	設立予定	住　　所	設置主体
通所授産施設「クローバーハウス」	11年4月	津市城山一丁目8番16	社会福祉法人「夢の郷」
生活訓練施設　「朝潮ハイツ」	11年4月		
地域生活支援センター「アンダンテ」	11年4月		
通所授産施設「太陽作業所」	12年2月	上野市四十九町2106	社会福祉法人「伊賀昂会」

表3　平成10年度　社会復帰関連施設支援状況

施設名	実施回数	参加人数	活動状況一言
ワークルーム桑友	1回	22人	多彩なボランティア活動に支えられた活発な作業所
四季の里	2	6	地域支援センターの活動を期待。当事者会は活発
みのり工房	1	9	四季の里関連の作業所。他の作業所訪問を実施交流
オレゴン	1	8	四日市の玄関にあり、弁当づくりや喫茶作業が主業
わかば共同作業所	6	330	11年2月18日　15周年記念大会が盛大に挙行
すずわの家	2	24	福祉の店「パレット」管理、鈴鹿厚生病院の支援有
いすず工房	2	14	パン作り作業と販売が主、最近内職的作業加わる
かすみ園芸	3	14	苗木栽培が主、台風でハウスが飛ぶが頑張っている
工房T&T	5	61	運営委員、協力者懇談会に出席。就労支援を視野に
松阪工作所	5	61	運営委員会、ケース検討会出席。当事者活動順調
ふるさと工房	4	38	ケース検討会出席、作業指導員の下作業内容充実
太陽工作所	2	25	作業活動を重視。社会福祉法人「通所授産施設」を
陽だまり作業所	2	8	知的障害作業所と併設、酵母パンの製造と販売定着
ふれあい工房	3	29	自主製品の製作作業が中心、メンバーも増加中
南紀サンサンワーク	2	22	市内の空き家を借り、市町村支援をえてスタート
フェアワークス下野	1	60	1月23日　竣工式、　2月開設
計	41	711	

○ 7. 調　査・研　究 ○

調査・研究

平成10年1月から4月にかけ、県内の保健所社会復帰相談指導事業（デイケア）利用者と共同作業所通所生、下記の184名の協力により、生活実態と社会復帰ニード調査を行い、調査結果の集計、考察を行った。

保健福祉部（保健所）デイケア

はまぐり会〔北勢県民局桑名保健福祉部《桑名保健所》〕	6名
金よう会〔北勢県民局四日市保健福祉部《四日市保健所》〕	7名
コスモス〔北勢県民局鈴鹿保健福祉部《鈴鹿保健所》〕	7名
ひろば〔津地方県民局保健福祉部《津保健所》〕	11名
ポップコーン倶楽部〔津地方県民局保健福祉部《津保健所久居支所》〕	1名
出会いの広場　みどりの会〔松阪地方県民局保健福祉部《松阪保健所》〕	12名
みずほの会〔南勢志摩県民局保健福祉部《伊勢保健所》〕	10名
浜っ子〔南勢志摩県民局保健福祉部《伊勢保健所志摩支所》〕	11名
ひまわり会〔伊賀県民局保健福祉部《上野保健所》〕	5名
黒潮の会〔紀北県民局保健福祉部《尾鷲保健所》〕	5名
オレンジ会〔紀南県民局保健福祉部《熊野保健所》〕	6名
ありんこ〔三重県こころの健康センター〕	8名

精神障害者通所小規模作業所

ワークルーム桑友	13名
わかば共同作業所	11名
コミュニティハウス・オレゴン	5名
クラブハウスみのり	6名
すずわの家	8名
工房T&T	12名
いすず工房	5名
かすみ園芸	1名
陽だまり作業所	2名
松阪工作所	6名
太陽工作所	18名
ふるさと工房	5名
ふれあい工房	3名

調査結果、考察については、別紙にて報告する。

Ⅲ. 資　　料　　編

三重県こころの健康センター図書目録

番号	書名	著者又は訳者	出版社名
1	アリエティ分裂病入門	近藤喬一 訳	星和書店
2	アルコール依存症	斎藤学 共編	有斐閣
3	アルコール依存の社会病理	大橋薫 編	星和書店
4	アルコール症（J. フォート著）	大森正英 訳	東京大学出版会
5	異常と正常	秋元波留夫 著	東京大学出版会
6	遺伝精神医学	坪井孝幸 著	金剛出版
7	医療ソーシャルワーカー論	児島美都子 著	ミネルヴァ書房
8	岩波国語辞典	西尾実 著	岩波書店
9	狼に育てられた子（J. A. Lジング著）	中野善達 訳	福村出版
10	カウンセリングと人間性	河合隼雄 著	創元社
11	カウンセリングの実際問題	河合隼雄 著	誠信書房
12	覚醒剤中毒	山下格 著	金剛出版
13	仮面デプレッションのすべて	筒井末春 著	新興医学出版社
14	健康と福祉（厚生行政百問百答）	厚生省 監修	厚生問題研究会
15	現代精神分析　1	小此木啓吾 著	誠信書房
16	現代精神分析　2	小此木啓吾 著	誠信書房
17	講座　家族精神医学　1	加藤正明 共編	弘文堂
18	講座　家族精神医学　2	加藤正明 共編	弘文堂
19	講座　家族精神医学　3	加藤正明 共編	弘文堂
20	講座　家族精神医学　4	加藤正明 共編	弘文堂
21	講座　日本の老人　1　老人の精神医学と心理学	金子仁郎 共編	垣内出版
22	講座　日本の老人　2　老人の福祉と社会保障	岡村重雄 共編	垣内出版
23	講座　日本の老人　3　老人と家族の社会学	那須宗一 共編	垣内出版
24	行動と脳	今村護郎 著	東京大学出版会
25	最新児童精神医学	高木隆郎 監訳	ルガール社
26	自己と他者（R. D レイン著）	志貴春彦 共訳	みすず書房
27	実務衛生行政六法61年版	厚生省 監修	新日本法規
28	児童精神衛生マニュアル	松本和雄 共著	日本文化科学社
29	児童の発達と行動	加藤正明 共訳	医学書院

番号	書　　名	著者又は訳者	出版社名
30	死にゆく患者と家族への援助	柏木哲夫著	医学書院
31	社会精神医学の実際　1	加藤伸勝編	医学書院
32	社会精神医学の実際　2	佐藤亮三編	医学書院
33	社会精神医学の実際　3	逸見武光編	医学書院
34	社会精神医学の実際　4	加藤伸勝編	医学書院
35	生涯各期の心身症とその周辺疾患	並木正義編	診断と治療社
36	小児メディカルケアシリーズ　6　小児のMBD	上村菊朗共著	医歯薬出版
37	小児メディカルケアシリーズ　7　登校拒否症	若林真一郎著	医歯薬出版
38	小児メディカルケアシリーズ　8　小児のてんかん	福山幸夫著	医歯薬出版
39	小児メディカルケアシリーズ　13　小児の糖尿病	田中美郷著	医歯薬出版
40	小児メディカルケアシリーズ　14　自閉症	村田豊久著	医歯薬出版
41	小児メディカルケアシリーズ　15　小児の心身症	河野友信著	医歯薬出版
42	小児メディカルケアシリーズ　20　夜尿症	三好邦雄著	医歯薬出版
43	職場の精神衛生	春原千秋共編	医学書院
44	事例検討と看護実戦	外口玉子編	看護事例検討会
45	事例検討と患者ケアの展開	外口玉子編	パオパブ社
46	心身の力動的発達		岩崎学術出版社
47	新精神保健法（法令、通知、資料）	厚生省監修	中央法規出版
48	心理療法の実際	河合隼雄編	誠信書房
49	人類遺伝入門	大倉興司著	医学書院
50	睡眠障害	上田英雄編	南江堂
51	睡眠障害	山口成良共著	新興医学出版社
52	ステッドマン医学大辞典		メディカルビュー
53	増補版　精神医学辞典	加藤正明共編	弘文堂
54	精神医学ソーシャルワーク	柏木昭編	岩崎学術出版社
55	精神医学と社会療法	秋元波留夫著	医学書院
56	精神医療の実際	菱山珠夫共編	金原出版
57	精神衛生と法的問題	高宮滋夫共訳	牧野出版
58	精神衛生と保健活動	中澤正夫共編	医学書院
59	精神衛生のための１００か条	中沢正夫著	創造出版

番号	書　　名	著者又は訳者	出版社名
60	精神衛生法詳解	公衆衛生法規研究会	中央法規出版
61	精神科のソーシャルスキル	アイリーン山口監修	協同医書出版
62	精神科のリハビリテーション	吉川武彦著	医学図書出版
63	精神科のハーフウェイハウス	加藤正明著	星和書店
64	精神科　MOOK　3　覚せい剤・有機溶剤中毒	加藤伸勝著	金原出版
65	精神科　MOOK　4　境界例	保崎秀夫著	金原出版
66	精神科　MOOK　6　思春期の危機	下坂幸三著	金原出版
67	精神科　MOOK　8　老人期痴呆	長谷川和夫著	金原出版
68	精神疾患ケース・スタディ	森温理著	医学書院
69	精神疾患と心理学	神谷美恵子著	みすず書房
70	精神障害者との出会い	加藤伸勝編	医学書院
71	精神障害者のディケア	加藤正明共編	医学書院
72	精神分析用語辞典	村上仁監訳	みすず書房
73	精神分析セミナー　I　精神療法の基礎	小此木啓吾共編	岩崎学術出版社
74	精神分析セミナー　II　精神分析の治療機序	小此木啓吾共編	岩崎学術出版社
75	精神分析セミナー　III　フロイトの治療技法論	小此木啓吾共編	岩崎学術出版社
76	精神分析セミナー　V　発達とライフサイクルの視点	小此木啓吾共編	岩崎学術出版社
77	精神分裂病の治療と社会復帰	蜂矢英彦著	金剛出版
78	青年期境界例の治療	成田善弘共訳	金剛出版
79	側頭葉てんかん	宇野正威著	星和書店
80	チューリッヒ学派の分裂病論	人見一彦著	金剛出版
81	てんかん診療の実際	福山幸雄監訳	医学書院
82	断酒学	村田忠良著	星和書店
83	地域精神衛生の理論と実際	加藤正明監修	医学書院
84	日本の中高年　1（上）　中高年健康管理学	篠野脩一編	垣内出版
85	日本の中高年　1（下）　中高年健康管理学	篠野脩一編	垣内出版
86	日本の中高年　2　中高年女性学	篠野脩一編	垣内出版
87	日本の中高年　3　収穫の世代	袖井孝子編	垣内出版
88	日本の中高年　4　老人のプロセスと精神障害	戸川行男共編	垣内出版
89	日本の中高年　5　中高年にみる生活危機	本村汎共編	垣内出版

番号	書　　名	著者又は訳者	出版社名
90	日本の中高年　6　病める老人を地域でみる	前田信雄著	垣内出版
91	ニュー　セックス　セラピー	野末源一訳	星和書店
92	脳と心を考える	井上英二編	講談社
93	方法としての事例検討	外口玉子著	看護協会出版会
94	保健所精神衛生活動のすすめ方	岡上和雄共著	牧野出版
95	夫婦家族療法	鈴木浩二訳	誠信書房
96	ボウルビィ母子関係入門	作田勉訳	星和書店
97	分裂病家族の研究	井村恒郎著	みすず書房
98	メンタルヘルス解説辞典	大原健志郎編	中央法規出版
99	森田正馬全集　1	森田正馬著	白揚社
100	森田正馬全集　2	森田正馬著	白揚社
101	森田正馬全集　3	森田正馬著	白揚社
102	ユキの日記	笠原嘉編	みすず書房
103	病むということ	江畑啓介訳	星和書店
104	ライフサイクルからみた女性の心	石川中共訳	医学書院
105	臨床神経心理学	濱中淑彦共訳	文光堂
106	臨床体験をつなぐ事例検討	外口玉子編	パオパブ社
107	臨床てんかん学	和田豊治著	金原出版
108	老人心理へのアプローチ	長谷川和夫共著	医学書院
109	老人精神衛生活動を始める人のため	浜田晋著	創造出版
110	老人保健の基本と展開	松崎俊久編	医学書院
111	老人ぼけの理解と援助	三宅貴夫編	医学書院
112	老年期の精神科臨床	室伏君士著	金剛出版
113	老年期の精神障害	長谷川和夫著	新興医学出版社
114	老年の精神医学	加藤伸勝監訳	医学書院

63年度以降購入分

番号	書名	著者又は訳者	出版社名
1	現代精神医学大系　1A　精神医学総論Ⅰ		中山書店
2	現代精神医学大系　1B1a　精神医学総論Ⅱa1		中山書店
3	現代精神医学大系　1B1b　精神医学総論Ⅱa2		中山書店
4	現代精神医学大系　1B2　精神医学総論Ⅱb		中山書店
5	現代精神医学大系　1C　精神医学総論Ⅲ		中山書店
6	現代精神医学大系　2A　精神疾患の成因Ⅰ		中山書店
7	現代精神医学大系　2B　精神疾患の成因Ⅱ		中山書店
8	現代精神医学大系　2C　精神疾患の成因Ⅲ		中山書店
9	現代精神医学大系　3A　精神症状学Ⅰ		中山書店
10	現代精神医学大系　3B　精神症状学Ⅱ		中山書店
11	現代精神医学大系　4A1　精神科診断学Ⅰa		中山書店
12	現代精神医学大系　4A2　精神科診断学Ⅰb		中山書店
13	現代精神医学大系　4B　精神科診断学Ⅱ		中山書店
14	現代精神医学大系　5A　精神科治療学Ⅰ		中山書店
15	現代精神医学大系　5B　精神科治療学Ⅱ		中山書店
16	現代精神医学大系　5C　精神科治療学Ⅲ		中山書店
17	現代精神医学大系　6A　精神症と心因反応Ⅰ		中山書店
18	現代精神医学大系　6B　精神症と心因反応Ⅱ		中山書店
19	現代精神医学大系　8　人格異常、性的異常		中山書店
20	現代精神医学大系　9A　躁うつ病Ⅰ		中山書店
21	現代精神医学大系　9B　躁うつ病Ⅱ		中山書店
22	現代精神医学大系　10A1　精神分裂病Ⅰa		中山書店
23	現代精神医学大系　10A2　精神分裂病Ⅰb		中山書店
24	現代精神医学大系　10B　精神分裂病Ⅱ		中山書店
25	現代精神医学大系　12　境界例、非定型精神病		中山書店
26	現代精神医学大系　15A　薬物依存と中毒Ⅰ		中山書店
27	現代精神医学大系　15B　薬物依存と中毒Ⅱ		中山書店
28	現代精神医学大系　18　老年精神医学		中山書店
29	現代精神医学大系　23A　社会精神医学と精神衛生Ⅰ		中山書店

番号	書　　名	著者又は訳者	出版社名
30	現代精神医学大系　23B　社会精神医学と精神衛生Ⅱ		中山書店
31	現代精神医学大系　23C　社会精神医学と精神衛生Ⅲ		中山書店
32	現代精神医学大系　24　司法精神医学		中山書店
33	現代精神医学大系　25　文化と精神医学		中山書店
34	フロイド著作集1巻、精神分析入門（正続）	懸田克躬・高橋義孝訳	人文書院
35	フロイド著作集2巻、夢判断	高橋義孝訳	人文書院
36	フロイド著作集3巻、文化・芸術論	高橋義孝他訳	人文書院
37	フロイド著作集4巻、日常生活の精神病理学他	懸田克躬他訳	人文書院
38	フロイド著作集5巻、性欲論・症例研究	懸田克躬・高橋義孝他訳	人文書院
39	フロイド著作集6巻、自我論・不安本能論	井村恒郎・小此木啓吾他訳	人文書院
40	フロイド著作集7巻、ヒステリー研究他	懸田克躬・小此木啓吾他訳	人文書院
41	フロイド著作集8巻、書簡集	生松敬三他訳	人文書院
42	フロイド著作集9巻、技法・症例篇	小此木啓吾訳	人文書院
43	フロイド著作集10巻、文学・思想篇Ⅰ	高橋義孝・生松敬三他訳	人文書院
44	フロイド著作集11巻、文学・思想篇Ⅱ	高橋義孝・生松敬三他訳	人文書院
45	臨床脳波学	大熊輝雄	医学書院
46	クレペリンの精神医学1巻　精神分裂病	西丸四方・西方甫夫訳	みすず書房
47	クレペリンの精神医学2巻　躁うつ病とてんかん	西丸四方・西方甫夫訳	みすず書房
48	クレペリンの精神医学3巻　心因性疾患とヒステリー	遠藤みどり訳	みすず書房
49	遠藤四郎睡眠研究論集	遠藤四郎	星和書店
50	分裂病の身体療法	宇野昌人他訳	星和書店
51	躁うつ病の精神病理　1	笠原嘉編	弘文堂
52	躁うつ病の精神病理　2	宮本忠雄編	弘文堂
53	躁うつ病の精神病理　3	飯田真編	弘文堂
54	躁うつ病の精神病理　4	木村敏編	弘文堂
55	躁うつ病の精神病理　5	笠原嘉編	弘文堂
56	精神遅滞児（者）の医療・教育・福祉	櫻井芳郎他訳	岩崎学術出版社
57	岩波講座、子どもの発達と教育1．子どもの発達と現代社会		岩波書店
58	岩波講座、子どもの発達と教育3．発達と教育の基礎理論		岩波書店
59	岩波講座、子どもの発達と教育7．発達の保障と教育		岩波書店

番号	書　　名	著者又は訳者	出版社名
60	分裂病の精神病理 4	荻　野　恒　一　編	東京大学出版会
61	青年の精神病理　1	笠原嘉・清水將之・伊藤克彦編	弘　文　堂
62	青年の精神病理　2	小此木　啓　吾　編	弘　文　堂
63	青年の精神病理　3	清水將之・村上靖彦編	弘　文　堂
64	講座　生活ストレスを考える　1．生活ストレスとは何か	石原邦雄・山本和郎・坂本弘編	垣　内　出　版
65	講座　生活ストレスを考える　2．生活環境とストレス	山　本　和　郎　編	垣　内　出　版
66	講座　生活ストレスを考える　3．家族生活とストレス	石　原　邦　雄　編	垣　内　出　版
67	講座　生活ストレスを考える　4．職場集団にみるストレス	坂　本　　弘　編	垣　内　出　版
68	講座　生活ストレスを考える　5．学校社会のストレス	安　藤　延　男　編	垣　内　出　版
69	メラニークライン著作集1．子どもの心的発達	責任編訳・西園昌久・牛島定信著	誠　信　書　房
70	メラニークライン著作集3．愛、罪そして償い	責任編訳・西園昌久・牛島定信著	誠　信　書　房
71	メラニークライン著作集4．妄想的・分裂的世界	責任編訳・小此木啓吾・岩崎徹他	誠　信　書　房
72	メラニークライン著作集6．児童分析の記録 I	山　上　千　鶴　子　訳	誠　信　書　房
73	アルコール薬物依存	大原健士・田所作太郎編	金原出版株式会社
74	無意識の発見　上	アンリ・エレンベルガー著 木村敏・中井久夫編訳	弘　文　堂
75	無意識の発見　下	アンリ・エレンベルガー著 木村敏・中井久夫編訳	弘　文　堂
76	新しい子ども学　3巻　1育つ	小林登・小嶋謙四郎他著	海　鳴　社
77	新しい子ども学　3巻　2育てる	〃	〃
78	新しい子ども学　3巻　3子どもとは	〃	〃
79	アンナ・フロイド著作集　1　児童分析入門	岩村由美子・中沢たえ子訳	岩崎学術出版社
80	アンナ・フロイド著作集　2　自我と防衛機制	黒丸正四郎・中野良平訳	岩崎学術出版社
81	アンナ・フロイド著作集　3　家庭なき幼児たち・上	中　沢　たえ子　訳	岩崎学術出版社
82	アンナ・フロイド著作集　4　家庭なき幼児たち・下	中　沢　たえ子　訳	岩崎学術出版社
83	アンナ・フロイド著作集　5　児童分析の指針上	黒丸正四郎・中野良平訳	岩崎学術出版社
84	アンナ・フロイド著作集　6　児童分析の指針下	黒丸正四郎・中野良平訳	岩崎学術出版社
85	アンナ・フロイド著作集　7　ハムステッドにおける研究・上	牧田清志・坂本良男・児玉憲興訳	岩崎学術出版社
86	アンナ・フロイド著作集　8　ハムステッドにおける研究・下	牧田清志・坂本良男・児玉憲興訳	岩崎学術出版社
87	アンナ・フロイド著作集　9　児童期の正常と異常	黒丸正四郎・中野良平訳	岩崎学術出版社
88	アンナ・フロイド著作集　10　児童分析の訓練	佐藤紀子・岩崎徹也・辻律子訳	岩崎学術出版社
89	講座、精神の科学　2　パーソナリティ		岩　波　書　店

番号	書　　名	著者又は訳者	出版社名
90	異常心理学講座4巻　1　学派と方法	土居健郎・笠原嘉・宮本忠雄・責任編集	みすず書房
91	異常心理学講座　3　人間の生涯と心理	土居健郎・笠原嘉・宮本忠雄・責任編集	みすず書房
92	異常心理学講座　4　神経症と精神病1	土居健郎・笠原嘉・宮本忠雄・責任編集	みすず書房
93	異常心理学講座　5　神経症と精神病2	土居健郎・笠原嘉・宮本忠雄・責任編集	みすず書房
94	井村恒郎著作集　1精神病理学研究	井村恒郎著	みすず書房
95	井村恒郎著作集　2脳病理学・神経症	〃	みすず書房
96	井村恒郎著作集　3分裂病・家族の研究	〃	みすず書房
97	新しい精神医学	高橋良・臺弘監修	ベスコインターナショナル
98	老年の心理と精神医学	金子仁郎著	金剛出版
99	叢書・精神の科学　1巻精神の幾何学	安永浩著	岩波書店
100	叢書・精神の科学　2巻シンファンの病い	小出浩之著	岩波書店
101	叢書・精神の科学　4治療の場からみた分裂病	坂本暢典著	岩波書店
102	叢書・精神の科学　5正気の発見	内沼幸雄著	岩波書店
103	叢書・精神の科学　6心身症と心身医学	成田善弘著	岩波書店
104	叢書・精神の科学　7意識障害の人間学	河合逸雄著	岩波書店
105	叢書・精神の科学　8境界事象と精神医学	鈴木茂著	岩波書店
106	叢書・精神の科学　10精神と身体	遠藤みどり著	岩波書店
107	叢書・精神の科学　11脳と言語	野上芳美著	岩波書店
108	叢書・精神の科学　12貧困の精神病理	大平健著	岩波書店
109	叢書・精神の科学　13「非行」が語る親子関係	佐々木譲・石附敦著	岩波書店
110	井村恒郎・人と学問	懸田克躬編	みすず書房
111	人間性心理学への道（現象学からの提言）	村上英治編	誠信書房
112	生きること　かかわること	村上英治監修	名古屋大学出版会
113	人格の対象関係論　（フェァベーン著）	山口泰司訳	文化書房博文社
114	臨床的対象関係論　（フェァベーン著）	山口泰司・原田千恵子訳	文化書房博文社
115	性的倒錯　（メダルト・ボス著）	村上仁・吉田和夫訳	みすず書房
116	性の逸脱　（ストー著）	山口泰司訳	理想社
117	子どもの治療相談①適応障害・学業不振・神経症	ウィニコット著・橋本雅雄翻訳	岩崎学術出版社
118	子どもの治療相談②反社会的傾向・盗みと愛情剥奪	ウィニコット著・橋本雅雄翻訳	岩崎学術出版社
119	摘画による心の診断	岩井寛著	日本文化科学社

番号	書名	著者又は訳者	出版社名
120	家族療法（ジェィ・ヘイリィ著）	佐藤悦子訳	川島書店
121	夫婦家族療法I（Dグリック D・Rケスラー著）	鈴木浩二訳	誠信書房
122	集団精神療法の理論と実際	池田由子著	医学書院
123	心理面接の技術	前田重治著	慶応通信
124	コミュニテイ心理学	山本和郎著	東京大学出版会
125	日本の精神障害者	岡上和雄・大島巌・荒井元傳編	ミネルウァ書房
126	日常性の精神医学（ヴァン・デン・ベルグ著）	早坂泰次郎・矢崎好子訳	川島書店
127	表情病	阿部正著	誠信書房
128	現代精神医学の概念（サリヴァン著）	中井久夫・山口隆訳	みすず書房
129	精神医学的面接（サリヴァン著）	中井久夫・山口隆訳	みすず書房
130	発想の航跡	神田橋條治	岩崎学術出版社
131	身体の心理学（P・シルダー著）	稲永和豊監修	星和書店
132	岩波 心理学小辞典	宮城音弥編	岩波書店
133	精神病棟の20年	松本昭夫著	新潮社
134	精神障害・薄弱百問百答	児島美都子監修	中央法規出版
135	アメリカの精神医療	仙波恒雄盗訳・解説	星和書店
136	新精神保健法	厚生省保健医療局精神保健課監修	中央法規出版
137	適正飲酒ガイドブック		アルコール健康医学協会
138	痴呆老人対策	痴呆性老人対策推進部事務局編	中央法規出版
139	ぼけ老人の家庭介護手引き		厚生環境問題研究会
140	だれでもの精神科治療	小池清廉著	ルガール社
141	日本人の深層分析1　母親の深層	馬場謙一・小川捷之他編	有斐閣
142	日本人の深層分析2　父親の深層	馬場謙一・小川捷之他編	有斐閣
143	日本人の深層分析3　エロスの深層	馬場謙一・小川捷之他編	有斐閣
144	日本人の深層分析4　攻撃性の深層	馬場謙一・小川捷之他編	有斐閣
145	日本人の深層分析5　夢と象徴の深層	馬場謙一・小川捷之他編	有斐閣
146	日本人の深層分析6　創造性の深層	馬場謙一・小川捷之他編	有斐閣
147	日本人の深層分析7　病める心の深層	馬場謙一・小川捷之他編	有斐閣
148	日本人の深層分析9　子どもの深層	馬場謙一・小川捷之他編	有斐閣
149	日本人の深層分析10　青年期の深層	馬場謙一・小川捷之他編	有斐閣

番号	書　　名	著者又は訳者	出版社名
150	日本人の深層分析11　老いとるもの深層	馬場謙一・小川捷之他編	有　斐　閣
151	思春期の対象関係論	牛　島　定　信	金剛出版
152	痴呆老人の理解とケア	室　伏　君　士	金剛出版
153	薬物依存	加　藤　雄　司	金剛出版
154	分裂病者の行動特性	昼　田　源　四　郎	金剛出版
155	老年期精神障害の臨床	室　伏　君　士　編	金剛出版
156	E.ミンコフスキー　生きられる時間　1	中江育生・清水誠　訳	みすず書房
157	E.ミンコフスキー　生きられる時間　2	中江育生・清水誠・大橋博司訳	みすず書房
158	E.ミンコフスキー　精神分裂病	村　上　仁　訳	みすず書房
159	異常心理学講座　第9巻	土居健郎・笠原嘉・宮本忠雄・木村敏責任編集	みすず書房
160	E.クレペリン〈精神医学〉2 躁うつ病とてんかん	西丸四方・西丸甫夫訳	みすず書房
161	精神科看護とデイ・ケア	加藤政子・松元信子訳	医学書院
162	精神科看護の展開	外間邦江・外口玉子訳	医学書院
163	精神科看護と福祉	加藤政子・松元信子訳	医学書院
164	病院精神医療の展開	監修　加藤　伸勝	医学書院
165	PS.Powers,RC.Fernandez 神経性食欲不振症過食症の治療	監訳保崎秀夫・高木洲一郎	医学書院
166	R.K.コーニン編　ハンドブックグループワーク	馬場禮子　監訳	岩崎学術出版社
167	精神分析を語る	西園昌久	岩崎学術出版社
168	精神医学図書総覧	小林司　編	岩崎学術出版社
169	ウォン教授の集団精神療法セミナー グループリーダーのあり方	秋山剛　訳	日本集団精神療法学会第2回ウォン教授集団精神療法セミナー実行委員会発売:星和書店
170	ウォン教授の集団精神療法セミナー	山口隆・松原太郎監修	日本集団精神療法学会発売：星和書店
171	精神医療における芸術療法	徳田良仁・武場聡	牧野出版
172	マルコム・レコーダー　裁かれる精神医学	秋元波留夫・大木善和	創造出版
173	D.W.ウィニコット　子どもと家庭	牛島定信　監訳	誠信書房
174	医心理学	原田憲一・小片寛・遠沢千尋・黒信夫	朝倉書店
175	心の病気と現代	秋元波留夫	東京大学出版会
176	精神障害者の社会復帰	寺谷隆子　編	中央法規出版
177	ストレス診療ハンドブック	河野友信・吾郷晋浩	メディカルサイエンスインターナショナル
178	生活と福祉　別冊事例集　アルコール依存症および精神障害特集		全国社会福祉協議会

番号	書名	著者又は訳者	出版社名
179	パトグラフィ双書3　宮沢賢治	福島章	金剛出版
180	パトグラフィ双書6　ドフトエフスキー	荻野恒一	〃
181	パトグラフィ双書8　ヘミングウェイ	伊藤高麗夫	〃
182	パトグラフィ双書9　志賀直哉	鹿野達男	〃
183	パトグラフィ双書10　川端康成	稲村博	〃
184	パトグラフィ双書12　高村光太郎	町沢静夫	〃
185	精神科MOOK　2　家族精神医学	編集企画　西園昌久	金原出版
186	〃　5　アルコール関連障害	〃　加藤正明	〃
187	〃　9　精神分裂病の治療と予後	〃　山下格	〃
188	〃　11　身体疾患と精神障害	〃　原田憲一	〃
189	〃　12　対人恐怖症	〃　高橋徹	〃
190	〃　13　躁うつ病の治療と予後	〃　更井啓介	〃
191	〃　14　青少年の社会病理	〃　藤原豪	〃
192	〃　15　精神療法の実際	〃　吉松和哉	〃
193	〃　16　自殺	〃　春原千秋	〃
194	〃　17　法と精神医療	〃　逸見武光	〃
195	〃　18　家庭と学校の精神衛生	〃　山田通夫	〃
196	〃　19　森田療法－理論と実際	〃　大原健士郎	〃
197	〃　20　精神科救急医療	〃　山崎敏雄	〃
198	〃　21　睡眠の病態	〃　菱川泰夫	〃
199	ヤスパース精神病理学研究	藤森英之訳	みすず書房
200	アルコール依存症の精神病理	斎藤学	金剛出版
201	精神分析治療の進歩	西園昌久	〃
202	非行の病理と治療	石川義博	〃
203	家庭内暴力	若林慎一郎・本城秀次	〃
204	性的異常の臨床	高橋進・柏瀬宏隆　編	〃
205	分裂病と構造	小出浩之	〃
206	心理臨床家の目指すもの	台利夫・新田健一・長谷川孫一郎	〃
207	C.M アンダーソン・D.J レイス・G.E ハガティ 著　分裂病と家族上	鈴木浩二・鈴木和子監訳	〃
208	C.M アンダーソン・D.J レイス・G.E ハガティ 著　分裂病と家族下	鈴木浩二・鈴木和子監訳	〃

番号	書名	著者又は訳者	出版社名
209	精神分裂治療の展開	西園昌久	金剛出版
210	DSM－Ⅲ－R 精神障害の分類と診断の手引き第2版	高橋三郎・花田耕一・藤縄昭	医学書院
211	内因性精神病	吉永五郎	医学書院
212	Wブランケンブルグ自明性の喪失	木村敏・岡本進・島弘嵩共訳	みすず書房
213	精神保健実践講座 ①精神保健の基礎理解	加藤正明監・吉川武彦・佐野光正編	中央法規出版
214	〃 ②精神保健と精神科医療	加藤正明監・蜂矢英彦・南雲吉志郎編	〃
215	〃 ③精神保健とリハビリテーション活動	加藤正明監・蜂矢英彦・岡上和雄編	〃
216	〃 ④精神保健の社会資源	加藤正明監・村田信男・大江基編	〃
217	〃 ⑤地域精神保健活動の理解と実際	加藤正明 監・村田信男・藤井克徳編	〃
218	〃 ⑥精神保健と家族問題	加藤正明監・滝沢武久・村田信男編	〃
219	〃 ⑦精神保健教育のあり方	加藤正明監・吉川武彦・佐野光正編	〃
220	〃 ⑧精神保健行政と生活保障	加藤正明監・見浦康文・滝沢武久編	〃
221	〃 ⑨精神保健の法制度と運用	加藤正明監・小松源助・林幸男編	〃
222	〃 ⑩精神保健関係資料集	加藤正明監・見浦康文・中村俊哉編	〃
223	精神保健法詳解	精神保健法規研究会 編集	〃
224	精神科デイケア	精研デイケア研究会編・代表柏木昭	岩崎学術出版社
225	日本人の深層分析12 現代社会の深層	馬場謙一・小川捷之他編	有斐閣
226	精神科MOOK 26 精神科における医療と福祉	編集企画 蜂谷英彦	金原出版
227	援助困難な老人へのアプローチ	根本博司 編集	中央法規
228	分裂病を生きる	安斎三郎 編著	日本評論社
229	臨床ケースワーク	武田建 荒川義子	川島書店
230	臨床描画研究 Ⅰ 描画テストの読み方	家族画研究会編	金剛出版
231	臨床描画研究 Ⅱ 家族画による診断と治療	〃	金剛出版
232	臨床描画研究 Ⅲ 思春期、青年期の病理と描画	〃	金剛出版
233	臨床描画研究 Ⅳ 描画の臨床的活用	〃	金剛出版
234	臨床描画研究 Ⅴ イメージと臨床	〃	金剛出版
235	臨床描画研究Annex 1 家族イメージとその投影	〃	金剛出版
236	〃 2 私の表現病理学	〃	金剛出版
237	〃 3 描画を読むための理論背景	〃	金剛出版
238	治療構造論	岩崎徹也	岩崎学術出版社

番号	書　　名	著者又は訳者	出版社名
239	精神障害者福祉	田村健二、坪上宏、浜田晋、岡上和雄	相川書房
240	過食の病理と治療	下坂幸三　編	金剛出版
241	精神医学は対人関係論である　H.S　サリヴァン著	中井久夫、宮崎隆吉、高木敬三	みすず書房
242	分裂病と家族の感情表出　J.レフ　C.ヴォーン著	三野善央、牛島定信　訳	金剛出版
243	医療の人類学	波平恵美子　監訳	海鳴社
244	思春期やせ症の家族	福田俊一　監訳	星和書店
245	家族療法の理論と実際　I	大原健士郎、石川元	星和書店
246	家族療法の理論と実際　II	大原健士郎、石川元	星和書店
247	戦略的心理療法の展開　ジョンヘイリー著	高石昇、横田恵子　訳	星和書店
248	「うつ」を生かす	大野　裕	星和書店
249	青年期精神衛生事例集	清水將之、北村陽英	星和書店
250	感情病および精神分裂病用面接基準	保崎秀雄	星和書店
251	精神科のロングターム、ケア	山田義夫、小口徹	協同医書出版社
252	家族療法ケース研究2　登校拒否	鈴木浩二	金剛出版
253	方法としての面接	土居健郎	医学書院
254	自我同一性研究の展望（青年期）	鑪幹八郎、山本力、宮下一博	ナカニシヤ
255	精神障害者の職業リハビリテーション	岡上和男、松為信男、野中猛	中央法規出版
256	自立のための援助論	久保紘章	川島書店
257	患者家族会のつくり方と進め方	外口玉子	川島書店
258	セルフ・ヘルプ・グループの理論と実際	久保紘章	川島書店
259	家族変容の技法をまなぶ　G.R.パターソン	大渕憲一、春木豊	川島書店
260	精神を病むということ	秋元波留夫、上田敏	医学書院
261	増補　精神発達と精神病理	北田穣之助、馬場謙一、下坂幸三	金剛出版
262	性の臨床	河野友信	医学書院
263	中年期の精神医学	飯田眞	医学書院
264	医学モデルを超えて　E.G　ミシュラー著	尾崎新、三宅由子、丸井英二	星和書店
265	老人期痴呆の医療と看護	室伏君士	金剛出版
266	精神医学4　強迫神経症	遠藤みどり、稲浪正充	みすず書房
267	青年期　美と苦悩	大東祥孝、松本雅彦 新宮一成、山中康裕	金剛出版
268	思春期精神保健相談		財日本公衆衛生協会

番号	書　　名	著者又は訳者	出版社名
269	人と場をつなぐケア	外口玉子	医学書院
270	精神分裂病研究の進歩	藤縄昭	星和書店
271	「家族」と治療する	石川元	未来社
272	初期分裂病	中安信夫	星和書店
273	自己愛と境界例　J.F　マスターソン著	富山幸佑、尾崎新　訳	星和書店
274	入院集団精神療法	山口隆、小谷英文	へるす出版
275	精神科コンサルテーションの技術　L.S.グリックマン著	荒木志朗、柴田史朗、西浦研志 訳	岩崎学術出版社
276	最近精神衛生（その理論と応用）	高木四郎	慶応通信
277	新中間管理職のメンタルヘルス	佐々木時雄	弘文堂
278	新版　精神衛生	小杉正太郎　編著	川島書店
279	職場のメンタルヘルス	加藤正明、精神衛生普及会　編	保健同人社
280	メンタルヘルス	加藤正明	創元社
281	ライフサイクル精神医学	西園昌久	医学書院
282	コーフト自己心理学セミナー　I　ミリアム・エルソン編	伊藤洸　監訳	金剛出発
283	遊びリテーション	竹内孝仁、稲川利光 三好春樹、村上重紀	医学書院
284	青年期の精神科臨床	清水将之	金剛出版
285	ブロイラー精神医学総論	切替辰哉	中央洋書出版
286	生涯発達学　R.Mラーナー　N.Aブッシュ　ロスナガール編	上田礼子　訳	岩崎学術出版
287	電話相談の基礎と実際	長谷川浩一　編集 横浜いのちの電話 調査研究部 編	川島書店
288	地図は現地ではない	中沢正夫	朝文社
289	岩波講座　子どもの発達と教育4　幼年期発達段階と教育1		岩波書店
290	精神医学の臨床研究　サリヴァン	中井久夫、山口直彦、松川周吾 訳	みすず書房
291	治療のダイナミックス	森俊一、渡辺登	岩波書店
292	心理療法の諸原則　上　I.B ワイナー著	秋谷たつ子、小川俊樹、中村伸一	星和書店
293	心理療法の諸原則　下　I.B ワイナー著	秋谷たつ子、小川俊樹、中村伸一	星和書店
294	錯覚と脱錯覚	北山修	岩崎学術出版
295	サイコセラピー練習帳	丸田俊彦	岩崎学術出版
296	眠らぬダイヤル（いのちの電話）	稲村博、林義子、斉藤友紀雄	新曜社
297	分裂病の精神病理　16	土居健郎	東京大学出版社
298	森田式精神健康法	長谷川洋三	三笠書房

番号	書　　名	著者又は訳者	出版社名
299	一般医のための森田療法	樋口正元	太陽出版
300	森田療法のすすめ	高良武久	白揚社
301	続日本　収容所列島の60年	竹村堅次	近代文芸社
302	境界例の臨床	牛島定信　著	金剛出版
303	グループサイコセラピー	川室優　訳	金剛出版
304	無意識1　無意識へのプロレゴーメナ	アンリ・エー編、大橋博司 監訳	金剛出版
305	無意識2　無意識と言語	アンリ・エー編、大橋博司 監訳	金剛出版
306	無意識3　神経学と無意識	アンリ・エー編、大橋博司 監訳	金剛出版
307	無意識4　無意識と精神医学的諸問題	アンリ・エー編、大橋博司 監訳	金剛出版
308	無意識5　無意識の社会学、哲学への影響	アンリ・エー編、大橋博司 監訳	金剛出版
309	ある神経病者の回想録 ダニエル、パウル シュレーバー著	渡辺哲夫　訳	筑摩書房
310	東洋の狂気誌	小田晋	思索社
311	分裂病と他者	木村敏	弘文堂
312	精神分析と仏教	武田専	新潮選書
313	死に急ぐ子供たち　シンシア、R、フェファー	高橋祥友　訳	中央洋書出版部
314	引き裂かれた子供たち	池田由子	弘文堂
315	妻が危ない	池田由子	〃
316	心理療法論考	河合隼雄	新曜社
317	老いのソウロロギー（魂学）	山中康裕	有斐閣
318	陽性陰性症状評価尺度	山田、増井、菊本　訳	星和書店
319	老人虐待	金子善彦	星和書店
320	正常な「老い」と異常な「老い」	清田一民	星和書店
321	精神分裂病治療のストラテジー	浅井昌弘、八木剛平	国際医書出版
322	十代の四季	上田基	ミネルヴァ書房
323	児童精神保健	島田照三　森田啓吾 横山桂子　著	ミネルヴァ書房
324	別冊発達⑨乳幼児精神医学への招待	小此木啓吾　渡辺久子編	ミネルヴァ書房
325	老人福祉とは何か	一番ケ瀬康子　十吉林佐知子著	
326	高齢化社会と介護福祉	一番ケ瀬康子 仲村優一　北川隆吉編	ミネルヴァ書房
327	現代人の精神異常	福田哲雄　著	ミネルヴァ書房
328	ゆれうごく家族	金田利子　杉浦	ミネルヴァ書房

番号	書　　名	著者又は訳者	出版社名
329	ストレスの心理学	リチャード・S・ラザルス スーザン・フォルクマン著	実務教育出版
330	逆転移1	ハロルド・F・サルーズ 杉本雅彦他訳	みすず書房
331	外来精神医学から	笠原嘉	みすず書房
332	家族療法ケース研究④	牧原浩著	金剛出版
333	家族に学ぶ家庭療法	鈴木浩二監修	金剛出版
334	非行の臨床	石川義博著	金剛出版
335	臨床精神医学講義	日大精神神経科	星和書店
336	自己愛と境界例	ジェームス・F・マスターソン著 富山幸佑　尾崎新著	星和書店
337	小児精神医学	新井清二郎　長畑正道他著	中山書店
338	老年期の性	大工原秀子	ミネルヴァ書房
339	性ぬきに老後は語れない	大工原秀子	ミネルヴァ書房
340	精神科リハビリテーション	J・K・ウイング　B・モリス編 高木隆郎監訳	岩崎学術出版社
341	異常心理学講座⑥	土居健郎　笠原嘉 宮本忠雄　木村敏責任編集	みすず書房
342	中井久夫著作集　1　分裂病	中井久夫	岩崎学術出版社
343	〃　2　治療	〃	〃
344	〃　3　社会・文化	〃	〃
345	〃　4　治療と治療関係	〃	〃
346	〃　5　病者と社会	〃	〃
347	〃　6　個人とその家族	〃	〃
348	〃　別巻1　中井久夫共著論文集	山中康裕編	〃
349	〃　別巻2　H・NAKAI風景構成法	山口直彦編	〃
350	コンサルテーション・リエゾンの実際	荒木富士夫編著	岩崎学術出版社
351	職場と心の健康　①企業と産業精神衛生	財団法人精神分析学振興財団編 岩崎徹也 小此木啓吾 武田専監修	東海大学出版会
352	〃　②企業と中高年	〃	〃
353	〃　③企業と家族	〃	〃
354	〃　④企業と転勤	〃	〃
355	〃　⑤個人と性格	〃	〃
356	安永治著作集　1ファントム空間論	安永治	金剛出版
357	〃　2ファントム空間論の発展	〃	〃
358	〃　3方法論と臨床概念	〃	〃

番号	書名	著者又は訳者	出版社名
359	精神科リハビリテーションの実際　1	F・N・ワッツ　D・H・ベネット編　福島裕監訳	岩崎学術出版社
360	精神科リハビリテーションの実際　2	F・N・ワッツ　D・H・ベネット編　福島裕監訳	岩崎学術出版社
361	精神科難治療例　私の治療	融　道　男　編	中外医学社
362	これからの精神保健・精神医療	谷　中　輝　雄　編	やどかり出版
363	十亀史郎講演集1	十亀記念事業委員会	伊勢出版
364	地図は現地ではない	中　沢　正　夫	萌文社
365	心理劇とその世界	増　野　肇	金剛出版
366	サイコドラマのすすめ方	増　野　肇	金剛出版
367	異常心理学講座　第十巻　文化・社会の病理	上　居　健　郎　他	みすず書房
368	気分変調症	S・Wバートン　H・Sアキスアル	金剛出版
369	幻覚・妄想の臨床	濱中淑彦　河合逸雄　他編集	医学書院
370	子どもの心の臨床	中　沢　たえ子　著	岩崎学術出版社
371	シリーズ現代の病4　職場の病	河　野　友　信　編集	医学書院
372	精神保健と看護のための100か条	中　沢　正　夫	萌文社
373	精神保健「家族教室」	全国精神保健相談者会　田中英樹他	萌文社
374	精神保健マニュアル	吉　川　武　彦	南山堂
375	精神分裂病研究の進歩 1991 Vo2 No1	精神分裂病研究編集委員会	星和書店
376	〃　1992 Vo3 No1	〃	〃
377	臨床精神医学論集	土居健郎教授還暦記念論文集刊行会	
378	集団精神療法の進め方	山口　隆　中川賢幸　編	星和書店
379	臨床心理学体系　①臨床心理学の科学的基礎	河合逸雄　福島　章　他編集	金子書房
380	〃　②パーソナリティ	小川捷之　託摩武俊　他編集	〃
381	〃　③ライフサイクル	小川捷之　斉藤久美子　他編集	〃
382	地域精神保健活動の実際	吉　川　武　彦　編	金剛出版
383	安永浩著作集　症状論と精神療法	安　永　浩	〃
384	精神保健福祉の展開	岡　上　和　雄　編	相川書房
385	臨床心理学大系4　家族と社会	岡堂哲雄、鎌幹八郎　馬場禮子　編集	金子書房
386	〃　5　人格の理解1	安香　宏、田中富士夫　福島　章　編集	〃
387	〃　6　〃　2	村瀬孝雄、大塚義孝　安香　宏　編集	〃
388	〃　7　心理療法1	小此木啓吾、成瀬悟策　福島　章　編集	〃

番号	書名	著者又は訳者	出版社名
389	臨床心理学大系8　心理療法[2]	上里一郎、鑪幹八郎 前田重治　編集	金子書房
390	〃　9　〃　[3]	河合隼雄、水島恵一 村瀬孝雄　編集	〃
391	〃　10　適応障害の心理臨床	安井健三、小川捷之 安香宏　編集	〃
392	〃　11　精神障害の心理臨床	福島章、村瀬孝雄 山中康裕　編集	〃
393	シリーズ精神科症例集① 精神分裂病Ⅰ－精神病理－	木村敏　責任編集	中山書店
394	分裂病の精神病理と治療②	湯浅修一　編	星和書店
395	〃　③	中井久夫	〃
396	リバーマン実践的精神科リハビリテーション	ポール・リバーマン 安西信雄・池淵恵美　監訳	創造出版
397	メンタルヘルスシリーズ　サラリーマン・アパシー	延島信也　編	同朋舎
398	〃　働く女性のメンタルヘルス	馬場房子　編	〃
399	転換期に立つ精神病院	ゆうゆ編集部・氏家憲章	明文社
400	狂気の社会史	ロイ・ポーター著 日羅公和訳	法政大学出版局
401	こころの病いと家族のこころ	滝沢武久	中央法規出版
402	老年性精神疾患	エミール・クレペリン　著 伊達徹　訳	みすず書房
403	河合隼雄著作集　5　昔話の世界	河合隼雄	岩波書店
404	〃　6　子どもの宇宙	〃	〃
405	〃　13　生きることと死ぬこと	〃	〃
406	地域精神保健実践シリーズ②　保健デイケア	全国精神保健相談員会編 田中英樹　ほか著	明文社
407	慢性疾患と家族	フロマフルシュ/キャロル・M・アンダーソン編 野中猛・白石弘巳　監訳	金剛出版
408	精神科ディケアマニュアル	宮田勝	〃
409	脳障害者の心理療法	小山充道	北海道大学図書刊行会
410	憑依と精神病	高畑直彦、七田博文、内潟一郎	〃
411	児童虐待（危機介入編）	斉藤学	金剛出版
412	これからの地域保健	厚生省健康政策局計画課監修	中央法規出版
413	子どもの虐待防止	児童虐待防止制度研究会編	朱鷺書房
414	老いの心と臨床	竹中星郎	診療新社
415	Alcoholism : Origins and Outcome	R.M.Rose・J.E.Barrett	RAVEN
416	Handbook of Social Psychiatry	A.S.Henderson・G.Burrows	ELSEVIER
417	Mental Health in the Elderly	H.Häfner・G.Moschel N.Sartorius	Springer-Verlag
418	Stress testing Edition 3	F.A.Davis.	M.H.ELLESTAD

番号	書　　名	著者又は訳者	出版社名
419	Hysteria and Related Mental Disorders	D.W.Abse	WRLGHT
420	Social Support, Life Events, and Depression	N.Lin・A.Dean・Alfred Dean W.N.Ensel	ACADEMIC PRESS
421	私の分裂病観	中沢洋一	金剛出版
422	地域精神保健実践マニュアル	吉川武彦 竹島正	金剛出版
423	精神分裂病の心理社会治療	藤縄昭 高井昭裕 編	金剛出版
424	力動指向的芸術療法	マーガレット・ナウムブルグ著 中井久夫監修、内藤あかね訳	金剛出版
425	職場のメンタルヘルス	加藤正明 精神衛生普及会 編	保健同人社
426	1995　長寿社会行政の展望	政府関係庁省	労働行政資料調査会
427	精神分裂病者の責任能力	西山詮	振興医学出版社
428	精神医学を築いた人びと上・下	松下正明	ワールドプランニング
429	病いの語り	アーサー・クライマン	誠信書房
430	災害ストレスと心のケア	荒木憲一、川崎ナヲミ 長岡興樹、中根允文	医療薬出版
431	逆転移1，2，3	ハロルド・F・サールズ	みすず書房
432	精神障害者の地域福祉	日本社会事業大学をかこむ地域連絡会 全国精神障害者家族会連合会	相川書房
433	誰にもわかる分裂病とそのケア	ジョン・F・ソーントン メアリーV、シーマン 編者	中央法規
434	分裂病の精神病理と治療1～5	吉松和也、湯浅修一、中井久夫 飯田眞、永田俊彦	星和書店
435	分裂病症状をめぐって	村上靖彦	星和書店
436	続　精神医学を築いた人びと上・下	松下正明	ワールドプランニング
437	ケースマネージメント入門	デイビットP・マクスリ著	中央法規
438	精神障害者地域生活支援センターの実際	全国精神障害者社会復帰施設協会	中央法規
439	心的外傷と回復	ジュディス・L・ハーマン	みすず書房
440	精神保健リハビリテーション	C. ヒューム、I. プレン	岩崎学術出版
441	セルフヘルプ・グループ	アルフレッド・カッツ	岩崎学術出版
442	行動療法2	山上敏子	岩崎学術出版
443	虐待を受けた子どものプレイセラピー	ギル	誠信書房
444	子どもと家族への援助	村瀬代子	金剛出版
445	分裂病の精神病理と治療8	中安信夫	星和書店
446	内観療法	川原隆造	新興医学出版
447	薬物依存	加藤伸勝	新興医学出版
448	ストレス教室	山本晴義	新興医学出版

番号	書名	著者又は訳者	出版社名
449	依存症－35人の物語	なだいなだ	中央法規出版
450	DSM－Ⅳ 精神疾患の分類と診断の手引き	高橋三郎、大野 裕、染矢俊幸訳	医学書院
451	ICD－10 精神および行動の障害 臨床記述と診断ガイドライン	融 道男、中根允文、小見山実監訳	医学書院
452	精神分裂病 臨床と病理1	松木雅彦編	医学書院
453	治療薬マニュアル	高久史麿、鴨下重彦監修	医学書院
454	精神医学外伝	クリスティアン・ミュラー著	星和書店
455	精神医学百年史	岡 不二太郎 訳編	創造出版
456	これからの精神医療と福祉		
457	精神科リハビリテーション実践ガイド	H・Y・エクダヴィ A・M・コニング 著	星和書店
458	芸術療法 全2巻	中井久夫・山中康裕他監修	岩崎学術出版社
459	トラウマの臨床心理学	西澤 哲	金剛出版
460	精神医学レビュー 9 思春期の精神障害－今日的問題－	西園昌久 編集	ライフ・サイエンス
461	〃 11 ヒポコンドリー（心気）	高橋 徹 編集	〃
462	〃 12 精神分裂病の再発	太田龍朗 編集	〃
463	〃 14 OCD	成田善弘 編集	〃
464	〃 15 精神分裂病者のリハビリテーション	蜂矢英彦 編集	〃
465	〃 18 精神科治療における家族	下坂幸三 編集	〃
466	〃 24 精神障害の疫学	大塚俊男 編集	〃
467	〃 30 精神疾患の一次予防	岡崎祐士 編集	〃
468	〃 別巻 21世紀に向けて精神分裂病を考える	融道男・大森健一 編集	〃
469	精神保健福祉士養成セミナー 第1巻	精神保健福祉士養成セミナー編集委員会	へるす出版
470	〃 第2巻	〃	〃
471	〃 第3巻	〃	〃
472	〃 第4巻	〃	〃
473	〃 第5巻	〃	〃
474	〃 第6巻	〃	〃
475	〃 第7巻	〃	〃
476	〃 第8巻	〃	〃

〈定期刊行物〉

精神医学	医学書院
日本社会精神医学会	星和書店
アルコール医療研究	〃
集団精神療法	日本集団精神療法学会
ソーシャル　ワーク研究	相川書房
季刊精神療法	金剛出版
The American Journal of Psychiatry	Official Journal of the American Psychiatric Association
児童・青年精神医学とその近接領域	日本児童青年精神医学会
老年精神医学雑誌	ワールドプランニング
心理学評論（Vol32 No1～4，Vol33 No1～4）	心理学評論刊行会
心理臨床	星和書店
日本精神病院協会雑誌	日本精神病院協会
臨床精神医学	国際医書出版
精神障害と社会復帰	やどかり出版
公衆衛生	医学書院
季刊ゆうゆう	萌文社
週刊保健衛生ニュース	社会保険実務研究所
季刊職リハネットワーク	日本障害者雇用促進協会
JDジャーナル	日本障害者リハビリテーション協会
ぜんかれん	全国精神障害者家族会連合会

〈ビデオテープ〉

マイクロカウンセリングⅠ　基本的かかわり技法　前編
〃　Ⅱ　〃　後編
老人ボケを防ぐには
社会人としての言葉使いの基本
作業療法　生活を拡げる治療と援助
老人と飲酒
アルコールと循環器
肝臓とアルコール代謝
あと一杯が飲めるか
与越市つくしの里の実践から
　地域ぐるみでおこなわれている社会復帰活動を紹介する
こころの病をかかえて ── 精神障害者は今

病院を出て街で働きたい　報道特集（1987年）

君は空の青さを知っているか ―― 精神障害者が地域で生きていくために

今ここにいきる ―― 精神障害者とともに

災害と心のケアハンドブック

ひとりぼっちをなくそう ―― 精神障害者本人の会

そよ風はどこにでも　～地域精神保健の実際～

　第一巻：いつでも　どこでも　だれにでも

　第二巻：くらす　はたらく　つどう

家族のための分裂病講座

　正しい知識は回復への道

　ゆっくり治療し、再発を防ごう

　知っておきたい薬の知識

あちこたねえ

　精神障害者の地域生活支援

ケースの心をとらえる面接

　第１巻：面接の基本

　第２巻：面接技術の向上をめざして

未成年者にアルコールなんかいらない

老化と飲酒

おかえり

ひらく　かける　つなぐ　～精神保健ボランティア～

　第１巻：いっしょにいこうよ

　第２巻：スタンバイミー

〈精神保衛啓発用パネル〉

Ⅰこころの健康づくりシリーズ（７枚）

こころの健康とは

こころの病気にかかる人はどれくらい？

こころとからだ

ライフサイクルと心の病

こころの問題はどこへ相談すればいいの？

こころの健康づくり

生活環境とストレス

Ⅱ社会復帰シリーズ（７枚）

社会復帰のための４要素

ディケアとは

共に生きる社会

社会復帰のための社会資源－１．制度－

〃　　－２．施設と活動－

共同作業所とは

家族会活動

Ⅲ（ライフサイクル）思春期シリーズ（5枚）

思春期のこころ　　思春期のからだ

親ばなれ　　子ばなれ

思春期の心の病のサイン

Ⅳ（ライフサイクル）老年期シリーズ（10枚）

老年期の心と体の特徴　　老年期の心の病（精神障害）

痴呆とは①　　痴呆とは②

仮性痴呆　　痴呆の予防

痴呆の介護①　　痴呆の介護②

痴呆はどうして起こる　　健やかなる老後

〈寄贈本〉

番号	書名	著者又は訳者	出版社名
1	シンナー乱用の治療と回復	小沼杏坪著	㈲ヘルスワーク協会
2	ドラッグ世代	水谷修	太陽企画出版
3	お酒ってなんだろう	今成知美	岩崎書店
4	タバコってなんだろう	小沢杏子	岩崎書店
5	ストップ・ザ「たばこ・酒・薬物乱用」	有田幸男編著	東峰書房
6	依存症（35人の物語）	なだいなだ・吉岡隆・徳永雅子 編	中央法規
7	よくわかる覚せい剤問題一問一答	関紳一監修	合同出版
8	中高生の薬物汚染	水谷・原田・関・吉岡・近藤・森野他著	健康双書
9	薬物から家族を守る	小森榮	三一書房
10	さらば、哀しみのドラッグ	水谷修	高文研
11	薬物依存症とは何か	東京ダルク編集委員会編	東京ダルク
12	親と教師のための覚せい剤問題入門	子どもと教育・文化を守る埼玉県民会議 編	合同出版
13	援助者のためのアルコール・薬物依存症　Q&A	吉岡隆 編	中央法規
14	ドラッグ（薬物）ってなんだろう	水澤都加佐	岩崎書店
15	薬物乱用と家族	斉藤学著	㈲NCスクール協会
16	依存性薬物シリーズ1　ストップ　ドリンキング	丸山勝也監修	日本教育新聞社
17	〃　2　シャットアウト　スモーキング	浅野牧茂監修	〃
18	〃　3　ドン・ドゥ　ドラッグ	小沼杏坪・小田晶彦・原田幸男 監修	〃
19	青少年のための自殺予防マニュアル	高橋祥友著	金剛出版
20	ドラッグ社会への挑戦	小森榮著	丸善ライブラリー

平成10年度版　こころの健康センター所報

平成11年11月　発行

三重県こころの健康センター
（精神福祉センター）

〒514-1101　久居市明神町2501－1
三重県久居庁舎内
電話　059－255－2151